

〈かまきり〉と〈とかげ〉の混乱と適応 —— 東京湾岸言語地図から

佐々木 英 樹

Mantis “Kamakiri” and Lizard “Tokage”,
the Names of Which are Confusing and Later Improved
on the Linguistic Atlas of the Tokyo Bay Area

Hideki SASAKI

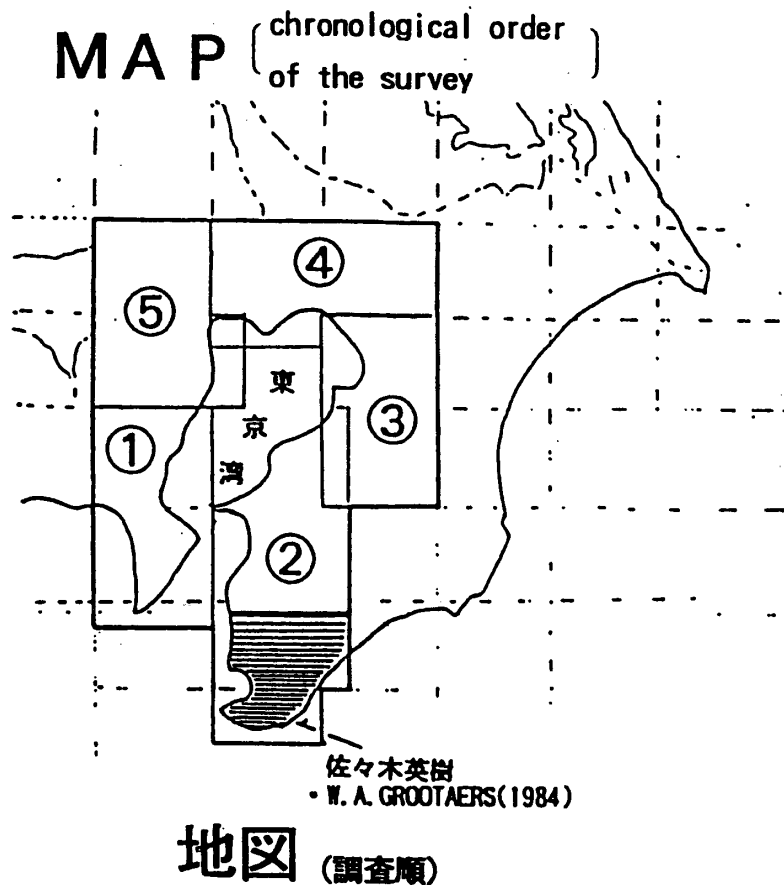
ABSTRACT

No country can be named in which all the native inhabitants are now so perfectly adapted to each other and to the physical conditions under which they live, that none of them could anyhow be improved.— Charles Darwin (1859) *On the origin of species*, p. 132

The principal purpose of this paper based on the analysis of the data collected from two thousand and more informants by the direct field method is the following —

The Tokyo Bay Area proved to be divided into three Blocks.

Block 1 : Southern Chiba Pref., where we can find the reverse relationship between “kamakiri” and “tokage”, in which the former means the latter, and vice versa. The reason why so ? A native dialect caused people there to get into a mess. It was “kama-gitcho” meaning a lizard. Two groups



differently behaved toward the dialect. One group understand that it traditionally means a lizard. The other misunderstand that the word signifies a mantis, because the initial syllable <kama> of “kama-gitcho” associates the dialect with a mantis (see Maps 3-6, & 3-7 in the body).

It should be added that the difference between “kamakiri” and “tokage” on one hand and “kama-gitcho” on the other is in writing and speaking respectively.

2

Block 2 : Northern Chiba Pref., where people there substitute dialects “kaman-choro” and “kama-chocho” for “kama-gitcho”; they undoubtedly avoided the last for its above-mentioned problem. Both of “kaman-choro” and “kama-chocho” exclusively signify “tokage”. It is easily understood that those two kinds of onomatopoeias <-chocho/-choro> remind people of lizards’ funny movements while running away.

“Kama-chocho” almost exclusively occupies Ichihara City and a part of Chiba City; “kaman-choro” secures a bigger possession of most of Chiba City and further northern cities (see Map 3-9 in the body).

3

Block 3 : Kanagawa Pref. and Tokyo Metropolitan, where a new word “kaga-mitcho” took the place of the word “kama-gitcho”. It is supposed that the regions the “kaga-mitcho” has now covered were once had by the “kama-gitcho”. It is because each region of “kama-gitcho” and “kaga-mitcho” forms what you call ‘complementary’ distribution. In passing, “kama-gitcho” changed into “kaga-mitcho” as a result of what is called metathesis (see Maps 3-10, 3-11, & 3-12 in the body).

These 3 blocks conform to three phases of adapting themselves to their linguistic environment. The first block is in the state of chaos. The word “kama-gitcho” there is in use at 89% of all. The second one has almost succeeded in getting rid of the misleading “kama-gitcho”, which is in use just at 10%. The last and third one is enjoying their comfortable environment, in which it is in use at 1% only.

0. はじめに

0.1 この論文を書く目的

「かまきり」を「犬」と言い、「とかげ」を「猫」と言うことにしよう。そうするとどうなるだろう。合言葉、暗号、逆さ言葉（横浜港近辺の人は大きな船が走っているのをみると「ちっちゃけなー」と言う。日常言葉として、皮肉で「君は偉いよ」などと言う）といったものはある。しかしその種のものは日常語全体からいえば、ごく一部と言わざるをえない。もし大規模なものであれば、言語によって営まれる社会が機能しなくなる。そうなれば、社会の崩壊につなが

る大事件、と言っても言いすぎではない。本論では東京湾岸言語調査（1973-1997）のなかから例をあげ、その困った言語状態の発生とその処置の過程を考察するのが目的である。

関東地方の「かまきり」（蟷螂・トウロウ）と「とかげ」（蜥蜴・セキエキ）の呼び名については、いぜんから問題が提起されている。かんたんに言えば、同じ地域で「かまきり」のことを「かまきり」と言う人もいれば「とかげ」と言う人もいるという。あるいは「とかげ」のことを「とかげ」と言う人もいれば「かまきり」と言う人もいるという。さらには一人の人が、「か

まきり」のことを[とかげ]と言い、同時に「とかげ」のことを[かまきり]と言う。こうなると混乱の極みである。【「 」と[]について：原則として「かまきり」と書かれた場合はそれが指すものを意味し、[かまきり]とした場合は、じっさいの音声を意味する。】

しかし、管見によると、そういう事態にはどういう“からくり”があるのか、どのようなメカニズムが隠されているのか、については従来じゅうぶんな分析がおこなわれているとは言えない。たとえば、柳田國男(1950/昭和25)「蟻螂考」では、「しかしこういう入り組んだ間違いも、東国ならばほぼ説明することを得るのである」(p. 265)。「東国ならばほぼ説明することを得る」とは言い条、その説明は読者にまかせている。また東條操(1949/昭和24)「関東における蟻螂の俚言」では、「…更にカマキリとトカゲの呼称の誤用にまで及ぶ過程はここに省略する。(昭和13年)」(p. 120)とどうも弱腰にみえる。まだ詳細で広範な資料が充分ではなかったからだろう。不幸にして未だ両氏の解釈に接する機会を得ていない。

最近、私どもの『東京湾岸言語地図』(未完)のための調査が終了し、幸いその調査票には「かまきり、とかげ」も含まれている。さらに、2,000余りもの調査地点でご協力をいただいた方々にご報告をかねて、特に「かまきり・とかげ」の呼称問題についての小生の考えを述べさせていただくものである。

まえもってお断りしておく。調査票には項目番号66「かまきり」・68「とかげ」・69「かなへび」がある。その中で「かなへび」は今回除くことにした。わたしの調査結果をみると、「かなへび」が「とかげ」より無回答の数が多いため、その結果回答数値が低い傾向はあるが、両方ほぼ動きが平行している。したがって両者を別に論じる意味があまりない。そういう理由で「か

まきり」と「とかげ」に限定して論じる。ただし、「かなへび」と「とかげ」の類似した動きを示しておくために、第一章の表1に「かなへび」の結果資料を添えておく。しかし、それもそれだけにして、「かなへび」についてこれ以上触れないこととする。

0.2 この論文の要旨

「かまきり」と「とかげ」のあいだにのちに大混乱をおこした張本人は、「かまぎっちょ」がそれだった。もちろん[かまぎっちょ]自身に悪気はなかった。それをうけとる人々の率直な印象が騒ぎをおこした。というのは[かまぎっちょ]はもともと“書き言葉”「とかげ」の“話しことば”だった。それがなぜ、こんなに大きな問題の糸口になったのか。次の事実注目すべきである。つまり、「かまぎっちょ」類の意味を「かまきり」ととる「かまきり」派と本来の「とかげ」ととる「とかげ」派があった。

それはなぜか。[かまぎっちょ]と耳にしたひとびとは、もともとそれが「とかげ」の意味だということを知っている人々は問題なかった。しかし、たとえ小動物としての「かまきり」と「とかげ」の違いを知っていても、その名前を知らない人があっておかしくはない。調査地域全体でも、[かまぎっちょ]を「とかげ」のことだと知っている人の数が常に誤答の人(つまり[かまぎっちょ]を「かまきり」のことだと思った人)より多いことは当然といえば当然である。

「かまぎっちょ」類の意味が「かまきり」の意味に取る率と「とかげ」の意味に取る率は39%対61%(両類合計347回答数)である。逆にいえば、「かまきり」のことを[かまぎっちょ]類と答えた136名、「とかげ」のことを「かまぎっちょ」類と答えた211名。すなわち合計347名で「かまきり」派39%、「とかげ」派61%となる。

人が「かまぎっちょ」を「かまきり」ではな

いかと考える理由は理解できる。たとえば「かまぎっちょ」の語頭〈かま〉で始まる「かまきり」を連想する人があって不思議ではない。また後半部の〈ぎっちょ〉などは虫を連想させることも可能である。ここが大事なところである。

“書きことば”が“話し言葉”として使われるときはふつう「丁寧なことば」である。住民がすべて混乱するわけではない。しかしふだん“話し言葉”としての「かまぎっちょ」を使うことの多い人にとっては、“書きことば”としての「かまきり」・「とかげ」の区別があやふやになるのも不自然ではない。こうして「かまぎっちょ」の誤解が「かまきり」と「とかげ」の区別をさらに不確かなものにした。以上が混乱の生じる原初の事情である。充分考えられることだ。

このあとは、「かまぎっちょ」がどう変化したかによって東京湾岸沿を三つの地域に分割することができる。以下、その三地域を説明する。

I (1) 千葉県側房総半島の南端（安房郡・館山市）

と同中央部（木更津・君津・富津）：この地域の特徴は依然として「かまぎっちょ」にこだわって、「かまきり」派（「かまぎっちょ」の意味は「かまきり」だとするグループ）と「とかげ」派（「かまぎっちょ」の意味は「とかげ」だとするグループ）の分裂が続いていることだ。この地域に今でも「かまきり」派、「とかげ」派両派を含めた「かまぎっちょ」を今なお使用している率は「かまぎっちょ」の東京湾岸沿全体での89%だ。つまりこの地域の「かまぎっちょ」は「かまきり」派か「とかげ」派かで決着がつかず、揺れている状態にある。

II つぎの二つに共通することは、火元になった

「かまぎっちょ」を排除し、他にかわるものと交代させる、点である。

(2) 千葉県側の、正確に言えば市原市と千葉市

以北の下総地方の印旛沼の緯度辺りまで。

千葉県下総方面の古くからあり、千葉市に向かった二種類の語「かまちょちょ」と「かまんちょろ」である。共通している点は、「とかげ」の動きを表現した語であるということ。①「かまちょちょ」の分布領域は市原市を中心に、千葉市の南端にもある。②「かまんちょろ」の分布領域は千葉市以北。

上の①・②はそれぞれ下線を引いた部分が「とかげ」を指している。「かまぎっちょ」と交代したと主張するのは、(2)の範囲で「かまぎっちょ」の生存率はわずか10%であるからだ。

(3) 三浦半島・横浜／東京都西・中央・北側は、

「かまぎっちょ」が音位転換 metathesis 現象で「かがみっちょ」に変化した地域だ。国立国語研究所（編）『日本言語地図』（第5巻）の〔とかげ〕の分布地図をみると思わずあっと言う。それは大略関東一円に「かまぎっちょ」が分布している。その分布の南端に「かがみっちょ」が続いているからだ。これは「かまぎっちょ」から「かがみっちょ」にメタスィスィス（音位転換）によって変化したものだ。

この地域での「かまぎっちょ」の出現率は1%にすぎない。

ことばの混乱が使い手にとってきわめて迷惑であれば、その混乱は解消しやすい。ことばの混乱も使い手にとってとくに困る理由がなければ、その混乱は続く傾向にある。

1. 1 検証1／統計による分析：第一段階

統計を分析するためには、まずその前に『東京湾岸言語地図』（未完）に基づき、分割された六つの地域ごとに統計数値を一覧の形にする。つまり該当項目（「かまきり・とかげ・かなへび」）別に回答数を原則的に多い順に記録し、一覧表を作成する。

千葉県館山市・安房郡——→冒頭のMAP参照
(≡の地域)

回答された 語類の代表	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号69 かなへび
* [かまきり]	135回答	11回答	11回答
* [かまぎっちょ]	71	90	42
* [かがみっちょ]	0	0	0
* [かんきり]	51		
* [ざっとんぼ]	34		
* [いぼ=]	24		
* [はらたち=]	22		
* [げんべ=]	8		
* [とかげ]	0	98	13

表1

(1)この地域だけは、生資料が部分的に見当たらないため該当する分布地図から、上の表の統計数値を得た。そのさい、原地図に使用されている符号が不鮮明な部分もあるから、そのようなときは慎重に、場合によっては数回数え直して決定した。このような事情もあって、これから順次示す地域ごとの統計とは少し性格が異なる。そのため東京湾岸の他地域の統計には、この『千葉県館山市および安房郡言語地図』は算入しないときもある。このようにして、同地図の語類である場合は、その前に符号*を添えて他と区別した。しかし重要資料にはかわりない。

(2)調査期間：1973～1979年。

(3)回答者（インフォーマント）数：503名。

(4)調査地点数：405。

①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕——→
冒頭のMAP参照

	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号69 かなへび
[かまきり] 類	510回答	0回答	0回答
[いぼった] 類	123	0	0
[かがみっちょ] 類	0	106	71
[かまぎっちょ] 類	2	3	2
[とかげ] 類	0	567	272
[かなへび] 類	0	0	12
無回答	4	14	170

表2

(1)調査期間：1982・1983・1985年

(2)回答者（インフォーマント）数：576名

○項目番号66（かまきり）に

(1) [かまきり] と回答した音声の詳細——

かまきり (495)、かまきり (9)、かまきりむし (2)、かまきりじーさん、みずかまきり、かまくり、かまきり (各1)。《7種》

(2) [いぼった] と回答した音声の詳細——

1) いぼった (17)、いぼ (8)、いぼったむし (6)、いぼたむし (4)、いぼた (2)、いぼったろー、いぼたろー、ぼった (各1)。〈8〉

2) いぼくいむし (4)、いぼっくいむし (2)、いぼくい (2)、いぼぐい、いぼっくらい、いぼっくり (各1)。〈6〉

3) いぼきり (10)、いぼきり むし、いぼ むし、いぼ むしり (各1)。〈4〉

4) えぼ (16)、えぼった むし (11)、えぼった (9)、えぼた、えぼた むし、えぼったろー、えぼたろー、えぼ むし (各1)。〈8〉。

5) えぼくい むし (5)、えぼっくい (2)、えぼっくい むし、えぼくい、えぼっくえ、えぼっくれ むし、えぼっくり むし (各1)。〈7〉。

6) えぼきり (3)、えぼっかき (1)。〈2〉
《35種》

(3) [かまぎっちょ] と回答した音声の詳細——

かまぎっちょ、かまいっちょ (各1)。《2種》 計：44種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

ばった(3)、いなご、えば…、えばった、おけら、がっちょ、かまいたち、かみきり むし、きりきり ばった、せんきん むし、とび うお、どびん わり、ねぼた (各1)。

計：13種

○項目番号68 (とかげ) に

(1) [とかげ] と回答した音声の詳細——

とかげ (555)、あお とかげ、しま とかげ (各5)、とがけ、あおいとかげ (各1)、《5種》

(2) [かがみっちょ] と回答した音声の詳細——

かがみっちょ (92)、かがみちょ (7)、かがみ(3)、どく かがみっちょ、かがみちょー、かかみっちょ、かがびっちょ (各1)。《7種》

(3) [かまぎっちょ] と回答した音声の詳細——

かまぎっちょ、かなぎっちょ、たがみっちょ (各1)。《3種》 計：15種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いもり (5)、やもり (4)、あかっぱら、かなへび、かま えたち (各1)。 計：5種

○項目番号69 (かなへび) に

(1) [とかげ] と回答した音声の詳細——

とかげ (270)、あか とかげ、くろ とかげ (各1)。《3種》

(2) [かがみっちょ] と回答した音声の詳細——

かがみっちょ (66)、かがみちょ (4)、かがびっちょ (1)。《3種》

(3) [かなへび] と回答した音声の詳細——

かなへび (12)。《1種》

(4) [かまぎっちょ] と回答した音声の詳細——

かまぎっちょ、かなぎっちょ (各1)。《2種》

計：9種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いもり (20)、やもり (19)、ちもぐり、つちへび (各11)、えもり (4)、あかっぱら、いもりかんちょ、いーもり、いーもりかんじょ、かなちょうろ、かまいたち、かまえたち、かんちょ、とかげのこ、まごたろ むし、もぐり、やまかがし、やまががし、やまっかがじ (各1)。 計：19種

②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

——→冒頭の MAP 参照

	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号68 かなへび
[かまきり] 類	319回答	47回答	21回答
[かまぎっちょ] 類	52	79	54
[かまっちょぎ] 類	10	14	11
[かまっちょ] 類	0	0	9
[かまっちょろ] 類	0	0	3
[とかげ] 類	0	261	183
[かなへび] 類	0	0	2
[さるばー] 類	38	0	0
[いばっきり] 類	18	0	0
[はらたちむし] 類	17	0	0
[つるんめ] 類	11	0	0
[かんかんばー] 類	5	0	0
無回答	5	16	100

表3

(1)調査期間：1986～1989年

(2)回答者 (インフォーマント) 数：389名

○項目番号66 (かまきり) に

(1) [かまきり] と回答した音声の詳細——

かまきり (306)、かまっきり (6)、かーまきり (2)、かまきり むし、かまきーり、かまん きり、くわ まきり、かまくり (各1)。《8種》

(2) [かまぎっちょ] と回答した音声の詳細——

かまぎっちょ (37)、かまげっちょ (4)、かーまぎっちょ、かまぎちょ、かまきっち

よ、かまぎつと（各2）、かまぎつちよー、かまげつつよ、かなぎつちよ（各1）。《9種》

(3)[かまっちょぎ]と回答した音声の詳細——
かまっちょ（3）、かまちよぎ、かまっちょげ、かまちよ（各2）、かまっちょぎ（1）。《5種》

(4)[さるぼー]と回答した音声の詳細——
さるぼー（11）、さるぼ（8）、さるんぼ、とーさるぼ（各3）、さる、しゃるぼ、おさるさん、さるこさま、さいこさま、おさいこさま、さるーぼ、さるんぼー、さるむし、とーたるぼ、とーだるぼー、とーざりぼ、とーざり（各1）。《17種》

(5)[いぼつきり]と回答した音声の詳細——
いぼつきり、いぼった（各3）、えぼつきり、いぼむし、いぼざる（各2）、いーぼつきり、いっぼつきり、えぼむし、いぼくらいむし、いぼはち、えぼ（各1）《11種》

(6)[はらたちむし]と回答した音声の詳細——
はらたちむし（4）、はらたち、はらたちぼ（各3）、はらたちげんぼ（2）、はらたつむし、はらたちぼー、はらたちげんべー、はらたちげんび、はらたちば（各1）。《9種》

(7)[つるんめ]と回答した音声の詳細——
つるんめ、つるかめ（各3）、つるめ、つるんべ（各2）、つるんみ、くつんめ（各1）。《6種》

(8)[かんかんぼー]と回答した音声の詳細——
かんかんぼー（3）、かんかんぼ、かんぼ（各2）。《3種》 計：68種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

げんべーむし、ぼった（各2）、げげんぼ、げげっぼ、とーろさん、とろ、おこりんぼ、おにばば、おにんばば、あおにんばば、かまき

りじーさん、かまむし、かみきり、ごんび、とかげ、やまんばば（各1）。計：16種

○項目番号68（とかげ）に

(1)[とかげ]と回答した音声の詳細——

とかげ（256）、あおとかげ（2）、とーかげ、とかぎ、ぎんとかげ（各1）。《5種》

(2)[かまぎつちよ]と回答した音声の詳細——

かまぎつちよ（53）、かまげつちよ（13）、かまぐちよ、かまきつちよ（各2）、かーまぎつちよ、かまぎつつお、かまぎつちよん、かまぎつちよ、かまぎ、かまきちよ、かまげ、げげつちよ、やまげつちよ（各1）。《13種》

(3)[かまきり]と回答した音声の詳細——

かまきり（45）、かまつきり（2）。《2種》

(4)[かまっちょぎ]と回答した音声の詳細——

かまっちょぎ（6）、かまっちょ（5）、かまっちょげ（4）、かまちよぎ、かまちよちよ（各2）、かまっちょぎり、かまちよげ、かまちよび、しまかまっちょ、かまちよっちょ、かまっちょろ、かまっちり、かなちよろ（各1）。《13種》 計：33種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いもり（24）、やもり（13）、いむり、えもり、おてんとさまのつけえ、おばーちゃん、かまいたち、とかげのこ、なかののおちゃん、はがち（各1）。計：10種。

○項目番号69（かなへび）に

(1)[かなへび]と回答した音声の詳細——

かなへび（2）。《1種》

(2)[とかげ]と回答した音声の詳細——

とかげ（180）、とかぎ、ちゃとかげ、ななふしとかげ（各1）。《4種》

(3)[かまぎつちよ]と回答した音声の詳細——

かまぎつちよ（39）、かまげつちよ（6）、かまきつちよ（2）、かーまぎつちよ、かま

つぎつお、かまぎっちょん、かまげちょ、
かーまげっきょ、かまげ、かまきちょ（各
1）。《10種》

- (4) [かまきり] と回答した音声の詳細——
かまきり (18)、かまきり (3)。《2種》
- (5) [かまっちょぎ] と回答した音声の詳細——
かまっちょぎ (4)、かまっちょげ (3)、
かまちょぎ (2)、かまっちょぎり、かまちょ
げ (各1)。《5種》
- (6) [かまっちょ] と回答した音声の詳細——
かまっちょ (5)、かまちょちょ (2)、かまちょ
ーちょ、かまちょっちょ (各1)。《4種》
- (7) [かまちょび] と回答した音声の詳細——
かまちょび、かまっちょり、かまっちょろ (各
1)。《3種》 計：29種。

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示
す。

いもり (34)、やもり (18)、えもり (4)、い
ーもり (2)、あかっぱら、かまいたち、けら
けら、げんのこ、じもぐりへび、すぐろへび、
つちもぐり、はがち、ひなたへび、(各1)。
計：13種。

③地域〔千葉市・市原市・袖ヶ浦町〕——→冒 頭のMAP参照

回答された 語類の代表	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号68 かなへび
[かまきり] 類	390回答	25回答	15回答
[かまんちょろ] 類	2	194	143
[かまちょちょ] 類	9	68	54
[かまきっちょ] 類	4	11	5
[ちばでら] 類	31	0	0
[つくんめ] 類	17	0	0
[つるんめ] 類	7	0	0
[とーろんび] 類	3	0	0
[かまげちょろ] 類	0	13	8
[かがんちょろ] 類	0	10	8
[とかげ] 類	18	191	132
[かなへび] 類	0	0	5
無回答	3	9	71

表4

(1)調査期間：1989～1992

(2)回答者（インフォーマント）数：328名。

○項目番号66（かまきり）に

- (1) [かまきり] と回答した音声の詳細——
かまきり (383)、かまきり むし、かまく
り (各2)、かまきり おしよ、かまきりじ
ーさん、かまきり (各1)。《6種》
- (2) [ちばでらおしよー] と回答した音声の詳
細——
ちばでら おしよー (8)、おしよーさま
(3)、でいがんじ おしよー、おしよさ
ま、おしよさん (各2)、ちばでら おし
よ、ちばでらの おしよー、ちばだら お
しよけ、だいがんじ おしよ、だいがん お
しよ、だいがんじえ おしよー、でーが
んじょーしよー、でーがんじょーしよ、でー
がんじょしよ、おしよーさん、おしよにん、
てらおしよー、てらのおしよけ、やまやま
おしよー (各1)。《19種》
- (3) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (16)、とかげ (2)。《2種》
- (4) [つくんめ] と回答した音声の詳細——
つくんめ (12)、つくんみ (2)、つくん む
し、つくめ、つくまい (各1)。《5種》
- (5) [かまちょちょ] と回答した音声の詳細——
かまちょちょ (5)、かまとと (3)、かま
ちょちょと (1)。《3種》
- (6) [つるんめ] と回答した音声の詳細——
つるんめ (3)、つるめ、つるみ、つるご
んべ、つねごんぼ (各1)。《5種》
- (7) [かまきっちょ] と回答した音声の詳細——
かまきっちょ (3)、かまぎちょ (1)。《2
種》
- (8) [とーろんび] と回答した音声の詳細——
とーろんび (2)、とーろー (1)。《2種》
- (9) [かまんちょろ] と回答した音声の詳細——

かまんちょう (2)。《1種》 計：45種
以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いぼった、おにばば、くみちゃん、くめちゃん、ささきりむし、ささきり、やまきり (各1)。計：7種

○項目番号68 (とかげ) に

(1)[かまんちょう]と回答した音声の詳細——
かまんちょう (167)、かまちょう (23)、かまんちょうん、かまんちおろ、かまんちょ一、かまんちょ (各1)。《6種》

(2)[かまちょちょ]と回答した音声の詳細——
かまちょちょ (58)、かまとと (7)、かまちょっちょ (2)、かまちょーちょー (1)。《4種》

(3)[とかげ]と回答した音声の詳細——
とかげ (187)、とかけ (3)、あおとかげ (1)。《3種》

(4)[かまきり]と回答した音声の詳細——
かまきり (25)。《1種》

(5)[かまげちょう]と回答した音声の詳細——
かまげちょう (5)、かまげんちょう (3)、おかまげちょう、かまがいちょう、かまげっちょう、おかまげろっちょ、かまげ (各1)。《7種》

(6)[かまきっちょ]と回答した音声の詳細——
かまきっちょ (5)、かまえちょ (2)、かまぎっちょ、かまぎちょう、かまいっちょ、かまいちょ、かま (各1)。《7種》

(7)[かがんちょう]と回答した音声の詳細——
かがんちょう (4)、かがみっちょ (2)、かがみちょ一、かがみっちょう、かがみちょう、かがめちょう (各1)。《6種》 計：34種

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いもり (8)、やもり (5)、えもり、かなへ

び、かまとと、ぎん、けうとと、たまんちょう、やまかかち、よつあし (各1)。 計：10種

○項目番号69 (かなへび) に

(1)[かまんちょう]と回答した音声の詳細——
かまんちょう (128)、かまちょう (13)、かまんちょ (2)。《3種》

(2)[かまちょちょ]と回答した音声の詳細——
かまちょちょ (46)、かまとと (5)、かまちょっちょ (2)、かまえちょ (1)。《4種》

(3)[とかげ]と回答した音声の詳細——
とかげ (130)、とかけ、あおとかげ (各1)。《3種》

(4)[かまきり]と回答した音声の詳細——
かまきり (15)。《1種》

(5)[かまげちょう]と回答した音声の詳細——
かまげちょう、かまげっちょう、かまげんちょう (各2)。おかまげちょう、おかまげろっちょ (各1)。《5種》

(6)[かがんちょう]と回答した音声の詳細——
かがんちょう (4)、かがみっちょう、かがみちょう、かがみっちょ、かがめちょう (各1)。《5種》

(7)[かまきっちょ]と回答した音声の詳細——
かまきっちょ (2)、かまげ、かまぎっちょ、かまぎちょう (各1)。《4種》

(8)[かなへび]と回答した音声の詳細——
かなへび (4)、かまへび (1)。《2種》 計：27種。

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

いもり (20)、やもり (18)、えもり、しまへび、じもぐり (各2)、じむぐり、やまかかち、やまががち、よつあし (各1)。計：9種。

④地域〔東京東部・千葉県境〕——→冒頭のMAP参照

回答された 語類の代表	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号69 かなへび
[かまきり] 類	286回答	0回答	0回答
[かまぎっちょ] 類	4	0	0
[かまげっちょ] 類	0	24	22
[かがめっちょ] 類	0	35	15
[かまちょろ] 類	0	4	6
[ごんべ] 類	3	0	0
[さるまん] 類	2	0	0
[とかげ] 類	1	216	97
[かなへび] 類	0	0	3
無回答	1	10	61

表 5

(1)調査期間：1992～1994

(2)回答者（インフォーマント）数：398名。

○項目番号66（かまきり）に

- (1) [かまきり] と回答した音声の詳細——
かまきり (265)、かまきり (17)、かまきりさん、かまきり、かまきり、こまきり (各1)。《6種》
- (2) [かまぎっちょ] と回答した音声の詳細——
かまぎっちょ (2)、かまげっちょー、かまめっちょ (各1)。《3種》
- (3) [ごんべ] と回答した音声の詳細——
ごんべ (2)、はらたちごんべ (1)。《2種》
- (4) [さるまん] と回答した音声の詳細——
さるまん (2)。《1種》
- (5) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (1)。《1種》 計：13種。

以上の回答がすべての回答。

○項目番号68（とかげ）に

- (1) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (210)、あおとかげ (3)、とかんげ、きんきら とかげ、ぎん とかげ (各1)。《5種》
- (2) [かがめっちょ] と回答した音声の詳細——
かがめっちょ (19)、かがみっちょ (10)、かがびっちょ (2)、かながめっちょ、かがめちょろ、かがめっちょ、かがみちょろ (各

1)。《7種》

- (3) [かまげっちょ] と回答した音声の詳細——
かまげっちょ (8)、かまげちょ、かまげっちょろ、かまぎっちょ (各4)、かまげちょろ (2)、かまげっちょー、かまげちょー (各1)。《7種》

- (4) [かまちょろ] と回答した音声の詳細——
かまちょろ (3)、おかまちょろ (1)。《2種》 計：21種。

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

やもり (14)、いもり (8)、いいもり、いもじ、えもり、かなんぼ、かまへび (各1)。 計：7種。

○項目番号69（かなへび）に

- (1) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (97)。《1種》
- (2) [かまげっちょ] と回答した音声の詳細——
かまげっちょ (9)、かまげちょ、かまげっちょろ (各4)、かまぎっちょ (3)、かまげっちょー、かまげちょろ (各1)。《6種》
- (3) [かがめっちょ] と回答した音声の詳細——
かがめっちょ (7)、かがみっちょ (5)、かがみっちょろ、かがめっちょ、かがびっちょ (各1)。《5種》
- (4) [かまちょろ] と回答した音声の詳細——
かまちょろ (2)、くろのかまちょろ、おかまちょろ、かまっちょろ、かまんちょろ (各1)。《5種》
- (5) [かなへび] と回答した音声の詳細——
かなへび (3)。《1種》 計：18種。

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

やもり (75)、いもり (26)、えもり (4)、もぐら (1)。 計：4種。

⑤地域〔東京西部・神奈川県境界〕——→冒頭のMAP参照

回答された 語類の代表	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号68 かなへび
[かまきり] 類	148回答	1回答	0回答
[かまつきり] 類	4	0	1
[かがみっちょ] 類	0	25	14
[かまんちょう] 類	0	1	1
[とかげ] 類	2	122	58
[かなへび] 類	0	3	6
無回答	1	9	36

表 6

(1)調査期間：1994～1997

(2)回答者（インフォーマント）数：202名／
（総回答者数：2396名）

○項目番号66（かまきり）に

- (1) [かまきり] と回答した音声の詳細——
かまきり (145)、かまぎり (3)。《2種》
- (2) [かまつきり] と回答した音声の詳細——
かまつきり (4)。《1種》
- (3) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (2)。《1種》
- (4) [はらたちごんべ] と回答した音声の詳細——
はらたちごんべ、はらだちごんべ (各1)。
《2種》 計：6種。

以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

ばった(2)、いぼそりむし、いぼけずり、きりぎりす (各1)。 計：4種。

○項目番号68（とかげ）に

- (1) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (120)、あおとかげ、ぎん とかげ (各1)。《3種》
- (2) [かがみっちょ] と回答した音声の詳細——
かがみっちょ (23)、かがめっちょ、かがみ
と、かがめ (各1)。《4種》
- (3) [かなへび] と回答した音声の詳細——
かなへび (3)。《1種》
- (4) [かまきり] と回答した音声の詳細——

かまきり (1)。《1種》

(5) [かまんちょう] と回答した音声の詳細——
かまんちょう (1)。《1種》 計：10種
以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。

やもり (9)、いもり (7)、あかはら、やま
っかがみ (各1)。 計：4種

○項目番号69（かなへび）に

- (1) [とかげ] と回答した音声の詳細——
とかげ (58)。《1種》
- (2) [かがみっちょ] と回答した音声の詳細——
かがみっちょ (14)。《1種》
- (3) [かなへび] と回答した音声の詳細——
かなへび (6)。《1種》
- (4) [かまつきり] と回答した音声の詳細——
かまつきり (1) 《1種》
- (5) [かまんちょう] と回答した音声の詳細——
かまんちょう (1) 《1種》 計：5種。
以上の回答以外の回答は除外した。下記に示す。
やもり (47)、いもり (5)、くろ とかげ、
むかで (各1)。 計：4種

1. 2 統計による分析：第二段階

第一段階では東京湾沿の調査地域を六つに分割した。そして各地域別に集計し、何か特徴的な事象を手さぐりで探す。さらに突き進むと、集まった資料を一覧表にし、原初的な結論らしきものに気づく。資料をその頭でくりかえす。そうしながら「これはいける」とか、「これはだめだ」とか、あまり根拠なく思いをめぐらす。第一段階ではこれがせいぜいだ。

次の第二段階では、六つの各調査地域の資料で類似しているものを集める。それが次頁に掲げるもの。

各項目別全回答数	2,096	2,215	2,026
	項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	項目番号69 かなへび
≡ [かまきり]	135回答	11回答	11回答
① [かまきり]	510	0	0
② [かまきり]	319	47	21
③ [かまきり]	390	25	15
④ [かまきり]	286	0	0
⑤ [かまきり]	152	1	1
	(79.1%)	(3.3%)	(1.8%)
≡ [とかげ]	0	98	13
① [とかげ]	0	567	272
② [とかげ]	0	261	183
③ [とかげ]	18	191	132
④ [とかげ]	1	216	97
⑤ [とかげ]	2	122	58
	(1.0%)	(61.3%)	(36.6%)
≡ [かまぎつちよ]	71	90	42
① [かまぎつちよ]	2	3	2
② [かまぎつちよ]	52	79	54
③ [かまぎつちよ]	4	12	5
④ [かまぎつちよ]	4	0	0
④ [かまげつちよ]	0	24	22
	(3.0%)	(5.3%)	(4.1%)
③ [かまんちよろ]	2	194	143
⑤ [かまんちよろ]	0	1	1
	(0.1%)	(8.8%)	(7.1%)
③ [かまちよちよ]	9	68	54
	(0.4%)	(3.1%)	(2.7%)
② [かまつちよ]	0	0	9
② [かまつちよぎ]	10	14	11
② [かまつちよろ]	0	0	3
	(0.5%)	(0.6%)	(1.1%)
③ [かまげちよろ]	0	13	8
		(0.6%)	(0.4%)
③ [かがんちよろ]	0	10	8
		(0.5%)	(0.4%)
④ [かまちよろ]	0	4	6
		(0.2%)	(0.3%)
≡ [かがみつちよ]	0	0	0
① [かがみつちよ]	0	106	71
④ [かがめつちよ]	0	35	15
⑤ [かがみつちよ]	0	25	14
		(7.5%)	(4.9%)
≡ [いぼ=]	24	0	0
① [いぼった]	123	0	0
② [いぼつきり]	18	0	0
⑤ [いぼ=]	2	0	0
	(8.0%)		
≡ [かんきり]	51	0	0
② [さるぼー]	38	0	0
④ [さるまん]	2	0	0
	(1.9%)		
② [つるんめ]	11	0	0

③ [つるんめ]	7	0	0
③ [つくんめ]	17	0	0
	(1.7%)		
≡ [ざっとんぼ]	34		
③ [ちばでら]	31	0	0
	(1.5%)		
≡ [はらたち=]	22		
② [はらたちむし]	17	0	0
	(0.8%)		
≡ [げんべー]	8		
④ [ごんべ]	3	0	0
⑤ [ごんべ]	2		
	(0.2%)		
② [かんかんぼー]	5	0	0
	(0.2%)		
③ [とーろんび]	3	0	0
	(0.1%)		
① [かなへび]	0	0	12
② [かなへび]	0	0	2
③ [かなへび]	0	0	5
④ [かなへび]	0	0	3
⑤ [かなへび]	0	3	6
		(0.1%)	(1.4%)
① 無回答	4	14	170
② 無回答	5	16	100
③ 無回答	3	9	71
④ 無回答	1	10	61
⑤ 無回答	1	9	36
	(0.7%)	(2.6%)	(21.6%)
各項目別全回答数	2,096	2,215	2,026

(注) 1) ≡印の数字は計算にいない。

2) ①, ②等は, 地域の番号である。→冒頭の MAP 参照

3) 無回答数も各項目別全回答数に含む。

表 7

以上の「統計による分析 (第 2 段階)」の表をみると第 1 段階では分からなかったことが出てくる。例えば、冒頭の [かまきり] のところである。これは例えば②の地域では、[かまきり] が「かまきり」 (= 項目番号66 かまきり) の意味で答えた人が319人、「とかげ」 (= 項目番号68 とかげ) の意味で答えた人が47人だ、ということだ。その [かまきり] 欄全体を見ると、まず①・④ (= 共に 0)、と⑤ (= 1) が目にうつる。⑤の 1 は 0 と同じだと考えていい。実はこれは①横浜・三浦半島、④千葉県下総 (佐倉、

八千代、鎌ヶ谷、松戸、習志野、船橋など）・東京都東部、⑤東京都西部・神奈川県（川崎・横浜最北端）といった地域である。残りの*・②・③はすべて千葉県で、南→北の順番に言えば：房総半島南端、富津・君津・木更津、袖ヶ浦・市原・千葉。つまり「かまきり」という語が、「かまきり」の意味か、「とかげ」の意味かの点で二つのグループに分かれることが分かる。

一覧表をみると、あんなことこんなことがあちこちに見えてくる。そのようなことを集結させて、さらに今度はその中から、何を主題にするか。まだ解決されていない問題は何かを頭にいれ、主題を決めてゆく。こうして素材として千葉県対神奈川県・東京都の二つのグループを大きな網にすることになる。主題もすでに頭に浮かんでいるが慎重を期す。

1. 3 統計による分析：第三段階

この段階でもう一歩しばって主題の枠組を明確にする。標題は《くかまきり》とくとかげの混乱と適応》に落ちつく。この主題で基礎になることは、「書きことば」と「話しことば」の特徴である。——このようにして、小論が始まる。

廣戸 惇 (1986/昭和61)『方言語彙の研究』、風間書房によれば「かまきり」「の文献語は、はじめから「かまきり」として登場してはいない」(p. 265)。「古くはイヒボムシリと呼ばれ」(p. 293)。『本朝食鑑』(1692)では、「とかげ」——蜥蜴(セツエキ)——はトカケ(止加介)と言ひ、関東方言ではカマギッチャウ(加麻木豆知也字)と言っているという(p. 161)。

また一般的にもよく知られている『物類称呼』(1775)では「かまきり」は江戸でカマギッチョウとあり、そのあと江戸の田舎ではハイトリムシという。いっぽう「とかげ」(見出しはトカケ)は東国でカマギッチョウ、相模ではカマキ

リとあるのが注目される(岩波文庫版による)。この時代にすでに《「かまきり」と「とかげ」の混乱》が生じていたことが分かる。

「書き言葉」と「話し言葉」の特徴は、定義いかにによっては問題になるが、ここでは前者が標準語・文語に、後者が方言・口語にあたるといい。また、文語は口頭で言っても、文語だし、口頭で言うものがすべて口語ではない。また歴史的に文語であったものが口語に変化したり、あるいはその逆であったりすることはありうる。また歴史的に当時標準語的な位置にあったことが後にいわゆる方言的な位置に変化するばあいだってあるはずだ。しかしその認定はたやすいことではない。

『物類称呼』には見出しとして「かまきり・とかげ」が使われているのを見れば、当時(1775年)すでに「かまきり・とかげ」は書き言葉の位置にあったと推定できる。

以上を前提に、わたしたちに与えてくださった2396人の各土地土地のみなさんからの口頭資料を次のような枠で位置づけるとする。＝で囲んだふぶんは、本論にとって、もっとも重要な部分という意味である。

かまきり	とかげ	書きことば
かまぎっちょ (かまっちょぎ)		話しことば
かまんちょう・かまちょちょ		
いは類 かんきり類 さるぼ一類 はらたち類 つるんめ類 ざっとんは類 ちばでら類 ごんべ類 かんかんぼ一類 とーろんび類	かがみっちょ類 かがんちょう類 かまげちょう類 かまちょう類	

表 8

資料の統計の分析からつぎのことがらが言え

る。

(1)書き言葉としての「とかげ・かまきり」に対峙する話し言葉として「かまぎっちょ（かまっちょぎを含む）」類がこの《混乱》の大きな役割をはたした。

「かまぎっちょ」が「かまきり」の意味か「とかげ」の意味か？それを見てみよう。

	「かまきり」の意味	「とかげ」の意味
地域Ⅲ	43% (65回答)	57% (86回答)
地域①	50 (2)	50 (2)
地域②	40 (62)	60 (93)
地域③	27 (4)	73 (11)
地域④	18 (4)	82 (18)
地域⑤	0 (0)	0 (0)
計	39% (137回答)	61% (210回答)

これを見ると次のことが言える――

①「とかげ」の意味の「かまぎっちょ」の割合が60%以上を占めている。ということは「かまぎっちょ（かまっちょぎ）」はもともと「とかげ」の意味だった。

②ではなぜ「かまぎっちょ（かまっちょぎ）」に「かまきり」の意味が生じたのか？そのきっかけは、「かまぎっちょ（かまっちょぎ）」の語頭〈かま〉が「かまきり」を連想させたと考えられる。「かまぎっちょ（かまっちょぎ）」の「かまきり」の意味が40%弱である理由はこのためだと考えられる。

「かまぎっちょ」が曖昧な状態の時代、つまり言語記号としての働きが完全ではない状態の時代があっても不思議ではない。このような例はとくに話し言葉では珍しいことではない。[みずすまし]と[あめんぼ]のどちらかの絵を見せられて苦なくどちらかが判定できるひとはどのくらいいるだろうか。また日常生活でこれらの小動物に親しい人とそうでない人によって判定力がちがうことも容易に考えられることだ。

③「かまぎっちょ」から「かまっちょぎ」の変化は、「かまぎっちょ」から「かがみっちょ」の変化と同じ性質のものである。いわゆる音位転換 metathesis メタスィスィスという現象である。日本語では、あたらし→あたらし、しだら→だらし等の類がよく知られている。とくに話しことばによく起こる現象だ。逆にこの現象がおこることが「話しことば」の証（あかし）と言える。

④表8の中の二重線で囲んである層は、重要な問題にしている《――混乱と適応》に重要な関与をしているという意味だ。このさい、三層の一番下の「かまんちょろ・かまちょちょ」に触れておきたい。「かまぎっちょ」の不便さを感じるのが契機になってその治療のために採用した語が「かまんちょろ・かまちょちょ」類だったからだ。

「かまんちょろ」

	「かまきり」の意味	「とかげ」の意味
地域③・⑤	1% (2回答)	99% (195回答)

「かまちょちょ」

	「かまきり」の意味	「とかげ」の意味
地域③	12% (9回答)	88% (68回答)

計 4% (11回答) 96% (263回答)

以上のことは「かまんちょろ」・「かまちょちょ」は「とかげ」の意味として使われることが圧倒的に多い、ということである。

なぜかと考えるとき、「かまぎっちょ」が「かまきり」の意味か「とかげ」の意味かで揺れる期間があり、この「かまぎっちょ」を使うことになにか苛立（いらだ）ちを感じていたはずだ。その頃「かまんちょろ」・「かまちょちょ」という語を誰言うとなく口に出せることが多くなった。その原因は、「かまんちょろ」の〈ちょろ〉、「かまちょちょ」の〈ちょちょ〉が、共に「とかげ」

を連想させるに十分な力があつた、すなわち「とかげ」の動きを示す擬態語であつたことである。逆に〈ちょう〉・〈ちょちょ〉が「かまきり」を連想させることはまずないことであつた。徳川宗賢(1989)『日本方言大辞典』には[かまんちょう] 印旛沼郡・東葛飾郡、[かまちょちょ] 千葉県上総とのみ記録されている。すくなくとも千葉県との深い関係が否定出来ない。

以上を要約すると、[かまぎつちょ]は語頭の〈かま〉が躓(つまず)きになり《〈かまきり〉と〈とかげ〉》の間に《混乱》が起こつた。〈かま〉が「かまきり」の語頭を想起させた。これが、それからというものの少なくとも200年間以上にわたって《〈かまきり〉と〈とかげ〉の混乱》が続いていることになる。その後、対症療法として、[かまんちょう]・[かまちょちょ]を採用し、《適応》への道に向けて始動した。

2. 検証2／回答者(インフォーマント)の内省による分析

この論考で使われる資料の母体は、原則として、回答者が生まれて、そしてそこで今でも生活されている場所にこちらから赴いて、言語について尋ねて得た資料である。その資料には、こちらから尋ねる間に答えてくださったものを記録したのがほとんど。しかしそれにおとらず大切な資料がある。質問に応じた回答に対する見解などを自主的に話していただくときもある。その内容も、回答とおなじ欄にいっしょに記入する。じつはその記入したものが回答を解釈するときにはことのほか役立つばあいが多い。

そういう性格の書き込み資料の中から本論と関係のあるものをここに集めた。分かりにくい原文の場合は、分かりやすいことばに変えたものも含まれる。前章までに私が再構した《「かまきり」と「とかげ」の混乱と適応》の歴史を積

極的に支持するか、あるいはすくなくとも矛盾しないものかどうかを判定する資料を提出する。

2.1 かまきり／①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕——▶冒頭のMAP参照(1982-1985)

【かまきり】①学校に入ってから使うようになった(地点286711／宮の下)。②現在使う(381522／原町)。③今(381512／諸磯)。④“いぼむしり”より多く使う(285857／洞井戸)。【 】は回答語。以下同様。

【えぼ】①“かまきりじーさん”より昔(188329／ひのみね)。②“かまきり”より昔(188504／富岡)・(188512／富岡)。

【いぼ】①噛まれると“いぼ”ができるということから(186354／寺尾)。②昔(189561／寺前)。

【いぼきり】①子供のころ言っていた(184295／平戸)。②“いぼを切る”の意味。古い時代には一般的(185036／根下)。③口語(188050／鉄砲宿)。

【えぼったむし】①昔(284930／伊勢町)。②“かまきり”とは別物。えぼったの木(さけぎ)につく。蚕に似た虫で食用になる(288477／長浜)。

【いぼった】①小さい頃使った。手の上にくってくる→いぼのよう(381522／原町)。②聞かない(184499／岩瀬)。③昔(381512／諸磯)。

【えぼつくい】“えぼった”より古い(288433／荒井)。

【いぼたむし】“かまきり”とは別物(284759／西竹沢)。

【えぼたむし】“かまきり”とは別物(289603／松原里)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1) [かまきり] 類と [いぼ] 類に限定されている。

(2) <[かまきり] / [いぼ]> の関係が <書きことば／話しことば> の関係にあることと矛盾するコメントはない。

[かまきり]という語	[いぼ]という語
学校に入ってから 身につけた 今風	学校に入るまえから 身につけた 昔風

(3) 個別的な注記——上記【いぼ】①、【えぼったむし】②、【いぼたむし】・【えぼたむし】——は、ことばというものは本来共通部分もあるが、それ以上に、語の分布領域が広がっていくにつれ、共通の部分は保ちながらも、個別的な部分が増えるということを語っている。

2.1 かまきり／②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕(1986-1989)

【かまきり】①かしこまった言い方(地点196796／長須賀南；199735／三直田)。②とかげ(194625／高須)。③かまきり(子供の時はどう呼んだか忘れた)(295407／どんどん)。④はらたちげんべー——→かまきり(298882／中倉)。

【いぼった】①かまきりの卵(299268／(金谷))。②“かまきり”の“鎌”で“いぼ”を取るという話がある(196756／長須賀北)。

【えぼつきり】昔(194693／七丁山)。

【いぼざる】かまきり——→いぼざる(“後者は”小さい時に使用)(199644／馬込)。

【いぼむし】昔(295438／(笹毛))。

【はらたちぼ】子供の頃(294885／箕輪町)。

【さるぼー】①最初に“かまきり”と答えてすぐ“さるぼー”をつけ加えた(293969／上坪)。“かまきり”より古い(294988／田中台)。

【さるぼ】昔よく使った(199702／山神)。

【さるこさま】子供の頃使った(194643／見立)。

【かまぎっちょ】①昔(292838／川久保)。②聞いたことはある(196822／平島)。

【かまっちょげ】昔(291951／上郷)。

【かまっちょ】かまきり——→かまっちょ(後者は前者を修正)(197943／上柳作)。

【つるかめ】女性のことば(102069／中宿)。

【かんかんぼー】昔(291702／法木作)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1) [かまきり]・[かまぎっちょ]・[いぼ]・[はらたち] 類は分かるが、[さるぼー]・[つるかめ]・[かんかんぼー] 類の意味・語源・素性が不明。

(2) [かまきり] 以外の語類が、[かまきり] より古いものであるという共通点がある。

(3) [かまきり] 類は、相対的に新しいが、この地域で出た特徴は<かしこまった言い方>という点だ。これは、“書きことば”と共通する特徴だ。

(4) [いぼざる] という語形があるということは、[いぼ] 類と [さる] 類がすでに [いぼざる] よりまえに分布していたということを示すものである。

(5) [はらたちぼ] は [はらたち] + [いぼ] と理解すれば、すでに [はらたち] 類と [いぼ] が分布していた証拠になる。

(6) [いぼざる]・[はらたちぼ] の語構造が(4)・(5)で示した通りであれば、[いぼ] 類は他の語の語頭にも語末にもくっついて合成語を作りやすい。以上(4)~(6)の線で単語をみていくと、この地域に登場する順番を推測しやすい。

2.1 かまきり／③地域〔千葉市・市原市・袖が浦町〕(1989-1992)

【とかげ】①“かまきり”ということも知っているが、幼少のころ“とかげ”と呼んでいた(905410／小谷津)。②本当の“とかげ”はいるんだが…(905664／西の作)。③子供のころ。“かまきり”とはあまり言わなかった(908770／本郷)。④“とかげ”昔(909847／広瀬)。⑤昔。今：“かまきり”(906878／(田町))。

【とかげ】昔(009520／広瀬)。

【かまきり・とかげ】共に使う(007651／輪の内)。

【かまきり】①現在(006754／鎌取)。②最近(009520／(郡本))。③かまきり→“つるんめ”昔(103459／寺ノ下)

【いぼった】①聞かない(007579／菊間村)。②言わない(007690／菊間村・008417／本町)。③使わない(104445／上高根下区)。

【かまちょちょ】①多(007650／古市場)。②俗にいう“とかげ”〔つまり“かまきり”のこと〕(009557／西四辻)。③“ちょちょ”の語源は“ちょうちょ”(104479／沢辺)。

【かまとと】古〔No. 68「とかげ」のことを“かまきり”と回答。つまり“かまきり・とかげ”を共に〔かまきり〕という。その後“かまとと”とは言わないと言って取消した〕(009865／上大台)。

【ちばでら おしょー】近くの寺の和尚さんのことから。この地区だけで言う(006631／町並)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること――

(1)特筆すべきは、「かまきり」にたいして“かまきり”とも“とかげ”とも答える、という現象である(905410／小谷津；905664／

西の作；908770／本郷；909847／広瀬；906878／(田町)；009865／上大台)。しかし正確に言えば、たんに“かまきり”とも“とかげ”とも答える」とは違う。それなのに、最終回答はみな「とかげ(と回答する)」とくる。実はその回答の表現はかんぜんには同じではないのに。このように質問に対する回答をまとめるとき注意すべきは、「十羽一からげ」にすることが多いということだ。実際に調査をした人は、回答数はあくまでも数である。実際はそんな簡単なものでは済ませないことを知っている。統計の数値による分析だけでは不十分で、それを充足するものが必要である。この章は「回答者の心理による分析」といってもいい。

(2)「いぼった」がこの地域に分布していない可能性がつよいことが判明した。一般に、存在する事・物を確かなものにすることより、存在しない事・物を確かにすることがより困難なことだ。

(3)「かまとと」<〔かまちょちょ〕の音声変化の可能性が高い。

(4)「ちばでら おしょー」類は千葉寺という古い伝統のあるお寺から命名したもの。

2.1 かまきり／④地域〔東京東部・千葉県境〕(1992-1994)

【かまきり】今(993907／北初富)

【かまきり・かまぎっちょ】両方使う(995974／(藤原))

【さるまん】①古(993907／北初富)。②昔。子供時代(993922／棚山)

【ごんべ】昔(995532／小合田)

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること――

- (1)「かまきり」「今」を裏返せば、昔はなかったという意味になる。これは一貫している。
- (2)「かまきり・かまぎつちよ」「両方使う」の意味が不鮮明。役に立たない回答。
- (3)「さるぼー」(②)と「さるまん」(④)との地理的関係を知りたい。

2.1 かまきり／⑤地域〔東京都・神奈川県境界〕(1994-1997)

【とかげ】すぐに「かまきり」と修正(986685／沼袋)。

【とかげ】〈調査者：「かまきり」とは言わなかったか？回答者：「とかげ」と言っていた。「かまきり」と「とかげ」をあまり区別せずと呼んでいた〉(987575／本村)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

- (1)一時的なまちがい(「とかげ」)。すぐ正解(「かまきり」)に修正。
- (2)「かまきり」と「とかげ」をあまり区別できない。これは事実だ。

2.2 とかげ／①地域〔神奈川県横浜市・三浦半島〕

【とかげ】①あまりいない(地点186426／北ヶ谷)。②多分(「とかげ」だろう)(1875 94／富岡)。③新《誘導》(184456／堀ノ内)。

【とかげ・かがみつちよ／とかげ＝誘導、かがみつちよ＝自発】(186211／宮根・186315／吉原・186456／森・188401／峰・188450／峰)。

【かがみつちよ・とかげ／かがみつちよ＝誘導、とかげ＝多い】(181245／西谷村)。

【かがみつちよ・とかげ／かがみつちよ＝昔、とかげ＝今】(180569／面滝・184210／後山田)。

【かがみつちよ・とかげ／かがみつちよ＝方言、

とかげ＝ふつう】(181287／(笠))。

【かがみつちよ・とかげ／とかげ＝ふつう】(185024／根下)。

【かがみちよー・とかげ／かがみちよー＝子供、とかげ＝大人】(184156／中川)。

【かがみつちよ・とかげ／区別なし】(184125／中村)。

【かがみつちよ】①旧(184456／堀ノ内)。②とかげの一種(186373／大北)。③昔(186446／森村)。

【かがみ】——→とかげ(183476／庚(かのえ)ごうち)、昔(186326／松本)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

- (1)「とかげ」が相対的に新しい語であることは他の地域でも聞かれる現象である。
- (2)「かがみつちよ」は自発的な回答として出やすい。それに対して「とかげ」が誘導で出やすい、ということは自発的な回答としては出にくい。これは「かがみつちよ」が「とかげ」より日常的な語であることを意味する。
- (3)「かがみつちよ」が方言で、「とかげ」はふつうのことばだという内省。ここで「方言」と「ふつう」ということばは、下記のような違いがあることをさしていると考えられる。

“方言”	“ふつう”
ぞんざいなことば	悪くないことば
仲間の中で使われることば	失礼のないことば
丁寧なことばとは言いがたい	「方言」よりは良いことば

- (4)「かがみちよー」が子供のころつかったことばに対して、「とかげ」は大人になってから使いはじめたことばと言える。

(5)「かがみちょー」・「かがみ」は「かがみっちょ」の変種であろう。

2.2 とかげ／②地域〔千葉県木更津市・君津市・富津市〕

【無回答】①「かまきり」と回答、しかし自信がなく、結局無回答（103040／下）。②忘れた、でも「とかげ」ではない（199705／ほりのうち）。③「とかげ」とは言わない（293665／岩富）。

【とかげ】①→かまぎっちょ（294479／亀田）。②→かまっちょ（？）（197943／上柳作）。③（誘導）聞いたことあり（291737／三直）。

【かまきり】①→とかげ（195603／畔戸・294959／萩生・（誘導）294544／二双川）②昔（291237／（富津）・295408／宮下）。③→かまぎっちょ（102254／こぶしあつ）。④→とかげ（誘導）（思い出せない）（194870／坂戸市場）。

【とかげ・かまきり／とかげ＝大、かまきり＝小】（195873／牛袋）

【かまっちょぎ】→とかげ（198876／矢畑）。

【かまぎっちょ】①→とかげ（291237／（富津））。②「かまぎっちょ」と聞けば、まず「かまきり」を思う（102069／中宿）。③「とかげ」とは違う（194893／神納新田）。④尻尾がすぐ切れるから（292811／泉）。

【かまぎっちょ・とかげ／かまぎっちょ＝古・とかげ＝新】（291394／川尻）。

【かまきり・とかげ】同じかどうか知らない（291781／常代）。

【かまちょちょ】「とかげ」より古い（103220／上口）。

【かまきっちょ】「かまきり」よりも多く使う（199832／砂田）。

———
以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1)「無回答」は悶々としたあげくの決心。

(2)〔とかげ〕と回答しても、もっと自信のある語に言いなおす心境。では〔かまきり〕はどうか。ここでも自信のある回答とは思えない。

(3)「とかげ＝大、かまきり＝小」とは、「とかげ」と「かまきり」の違いが大きさにあると言いたいのか？それとも子供のときは「かまきり」で、大人になってから「とかげ」を使うというのか。回答者の心中を察する。けっして笑い事ではない。

(4)「かまぎっちょ」と聞けば、まず「かまきり」を思う、は「かまきり」のかまと「かまぎっちょ」のかまとがそう思わせるのだ。これに対して、「かまぎっちょ」は尻尾がすぐ切れるから、〔とかげ〕のことだと主張しているらしい。

(5)ついには、“【かまきり・とかげ】同じかどうか知らない”と匙を投げる。この気持ちよく分かる。

(6)言語記号（この場合は単語）の破滅にいたる状況。このような状況が許されるのか？他の大多数の言語記号が正常な役割を果たしていれば、日常生活には支障がないからそう影響はうけない。

2.2 とかげ／③地域〔千葉市・市原市・袖が浦町〕

【とかげ】①〈誘導〉。→かまきり（101582／海士有木）。②〈誘導〉。あまり見ない（004833／（上ノ台））。③〈誘導〉。→かまんちょろ（904095／二本櫓）。④〈稀・今〉、かまちょちょ〈昔〉（100441／村上前）。⑤「かまんちょろ」より今（＝新しい）（002684／加曽利

大作)。⑥〈誘導〉。「とかげ」のことを「かまきり」とは言わない (004709／しく)。⑦「とかげ」とはいわない (007599／菊間村)。⑧「とかげ」と言うのは今 (009321／出津)。

【とかげ・かまんちょう／とかげ=大きい；かまんちょう=小さい】 (907512／井野新田・907516／庚申前・906585／二重堀・908094／谷津・909471／広尾)

【とかげ・かまんちょう／とかげ=今；かまんちょう=昔】 (906601／松山・003508／花 辺田)。

【とかげ・かまきり】どっちがどっちか分からない (004679／坊谷)。

【とかげ・いもり】特に区別しなかった (009258／新田)。【かまんちょう】①昔、使った (905042／鎌ヶ谷)。②昔から言っている・昔からの人と言う (907130／(飯山満町))。③昔よく使った (907489／よこど・907498／よこど)。④とかげ (000415／本郷)。⑤おっちょこちょいの人に対する悪口 (909981／入)。⑥男の子供とか (002468／作草部)。⑦今でも「とかげ」よりもよく使う (002469／穴川)。【かまんちょうん】子供 (003531／(院内町))。

【かまぎちょう】——→とかげ (905161／(二和東))。

【かがんちょう】幼いときはこう呼ぶ (905762／船戸)。

【かがみっちょ】自分はこう呼んだ。「かまちょう」とも言う (906951／(田町))。

【かまちょちょ】①よく使う。かまきり (005670／(大巖寺町))。②「とかげ」よりよく使う (105418／根本)。

【かまちょう・かがみちょう】佐倉では言う (007640／輪の内)。

【かまきり】①——→とかげ (004670／星久喜町)。②「かまきり」と答えたので、調査者がインフォーマントに「とかげ」の絵を見せる

と、うーんと絶句 (005855／大広)。③——かまちょう。「とかげ」とも言う。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1)「かまきり」と「とかげ」の区別が得意ではない。しかし、その他の名称のなかで自信のあるものを持っている。この地方について言えば[かまんちょう]は「とかげ」の割合は99%、「かまきり」の割合は1%にすぎない。[かまちょちょ]が「とかげ」の割合は88%、「かまきり」の割合は12%だ。だから[かまんちょう]か[かまちょちょ]と言えば、たいてい「とかげ」の意味にとってくれるはずだ。

(2)「とかげ」のことを[とかげ]とはいわない (市原市菊間)。

(3)【とかげ・かまきり】どっちがどっちか分からない (千葉市大宮町)

(4)同じ地域の人々——しかもこの場合には、生まれた家でそのまま暮らしている方々——でもこんなにいろいろな発言の断面を聞くと、意思疎通のむずかしさがわかる。

2.2 とかげ／④地域〔東京東部・千葉県境〕

【とかげ・かがめっちょ／とかげ=大きい・かがめっちょ=小さい】 (995548／小岩田・995569／小岩田)

【とかげ・かまげっちょ／とかげ=稀・かまげっちょ=ふつう】 (993960／南里)。

【とかげ・やもり／とかげ=屋外・やもり=屋内】一般に通じる (993907／北初富)。

【とかげ・やもり／とかげ=土の上・やもり=地面ではなく、家壁などについている】 (080823／穂田)。

【かがめっちょ】小さい子が言う (996399／(新小岩))。

【1：かがめっちょ⇒2：かがみっちょ⇒3：とかげ】1を一番よく使い、3はこの中では一番使わない(996462／奥戸村)。

【かがみっちょ】屈(かが)んで、ちょろちょろ動くから(998659／伊勢宿)。

【かがびっちょ】「とかげ」とは呼ばなかった。今は見ない(987716／中井)。

【かまげっちょ】「とかげ」とは言わない(993922／梶山)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1)「1：かがめっちょ⇒2：かがみっちょ⇒3：とかげ」のいうように、よく使われる順に並べることでできる人、と断片てきに説明をする人との違いはどこから来るものだろうか。

(2)「かがびっちょ」の「び」は「かがみっちょ」の「み」が臨時的に変化する場合と、常に無意識に「み」を「び」と変化させる場合とでは区別するべきである。

(3)「屈(かが)んで、ちょろちょろ動くから」と説明するやりかたは「民間語源」と呼ばれる。

2.2 とかげ／⑤地域〔東京都・神奈川県境界〕

【かまきり】——→とかげ(081920／広尾町)。

【とかげ】①この前に「かなへび」「かまんちょろ」が調査票に記録されている。しかし「とかげ」以外を抹消していることが分かる(984908／下)。②〈誘導〉。よく見かけるが、名前を忘れてしまった(984910／(十条))。

③——→いもり——→やもり(988566／関口)。

④「かがみっちょ」より新しい(089508／獅子ヶ谷)。

【かがみっちょ】①よく使う——→とかげ〈誘導〉(988478／大宮前)。②——→とかげ(989444／

上高井戸)。

以上インフォーマント自身による内省が示唆すること——

(1)東京都内でも「かまきり」と「とかげ」に揺れがあることが確かめられる。

(2)他の地域と異なることに、「とかげ」と関連して「いもり」と「やもり」が出てくることである。

(3)「とかげ」よりも「かがみっちょ」のほうが身についているようだ。

まとめ

「かまきり」への記憶——

1 かしこまった言い方〔木更津〕

2 子供の時どう呼んだか忘れた〔富津市〕

3 現在・最近のことば〔千葉市・市原市〕

4 学校に入ってから使い始める〔横須賀市〕

5 「いぼむしり」より多く使う〔横須賀市〕

6 いぼざる：「かまきり」の意味。小さいときに言った〔木更津市〕。

7 「かまきり」は「さるぼー」より古い〔君津市〕。

「かまきり」のことを「とかげ」と言う〔八千代市・佐倉市・市原市〕。

「かまきり・とかげ」が同じか生物かどうか分からない〔君津市・千葉市〕。

「かまきり・とかげ」をあまり区別せずに呼んでいた〔杉並区〕。

「かまきり・とかげ」を共に「かまきり」と言う〔市原市〕。

「かまきり＝大」「とかげ＝小」〔木更津市〕。

最初「かまきり」と答えた後、誘導質問で「とかげ」に修正したが、それでも「どういう生物なのか思いだせない」〔袖ヶ浦町〕。

〈正解「とかげ」の質問で〉最初「かまきり」と回答したので、調査者が「とかげ」の調査用の絵を見せると「うーんと絶句」〔千葉市〕。

〈正解「とかげ」の質問で〉最初「かまきり」と回答したが、そのあと「とかげ」に修正〔木更津・君津市・富津市・港区〕。

誘導質問の「とかげ」に対して「聞いたことはある」〔君津市〕。

誘導質問の「とかげ」に対して「忘れた、でも“とかげ”ではない」（“かまぎっちょ”を思い出そうとしたのか？）〔木更津市・富津市〕。

「とかげ」を誘導質問をした時「よく見かけますが名前を忘れてしまった」〔北区〕。

「とかげ」は昔の語〔富津市〕

「とかげ」はあまりいない〔横浜市〕

「とかげ」は新しい語〔横浜市〕

「かがみっちょ」と「とかげ」の関係——

- 1 「とかげ」は誘導質問だが、「かがみっちょ」は誘導質問なしで回答する〔横浜市戸塚区・港南区・磯子区〕。
- 2 「かがみっちょ」より「とかげ」を多く使う〔横浜市戸塚区〕。
- 3 「かがみっちょ」が昔。「とかげ」は今〔横浜市神奈川区・戸塚区〕。
- 4 「かがみっちょ」が方言。「とかげ」はふつう〔横浜市保土ヶ谷区〕。
- 5 「かがみっちょ」が子供のときのことば。「とかげ」は大人になってからのことば〔横浜市戸塚区〕。
- 6 「かがみっちょ」「とかげ」とも、区別なし〔横浜市戸塚区〕。
- 7 「かがみっちょ」より「とかげ」のほうが新しい〔横浜市鶴見区〕。
- 8 「かがめっちょ」は小さい。「とかげ」は大きい〔江戸川区〕。

9 「かがびっちょ」とは言った。「とかげ」とは言わなかった。今は見ない〔新宿区〕。

10 「かがめっちょ」①、「かがみっちょ」②、「とかげ」③のなかで③が一番使わない〔葛飾区〕。

「かまげっちょ」と「とかげ／かまきり」の関係——

- 1 「かまぎっちょ」は古。「とかげ」は新〔富津市〕。
- 2 「かまぎっちょ」と「とかげ」とは違う〔袖ヶ浦町〕。
- 3 「かまげっちょ」は普通。「とかげ」は稀〔松戸市〕。
- 4 「かまぎっちょ」と聞けば、まず「かまきり」と思いうかべる〔袖ヶ浦町〕。
- 5 「かまきっちょ」は「かまきり」よりも多く使う【「かまきっちょ」の〈かま〉が「かまきり」を連想させるのではないか H.S.】〔木更津〕。

かまんちょう：

- 1 昔よく使った〔鎌ヶ谷市・舟橋市・千葉市花見区〕。
- 2 今でも「とかげ」よりも多く使う〔千葉市〕。

かがみちょう：

- 1 ちょろちょろ動くから〔市川市〕。

いぼった：1 昔、小さい頃言った。今は「かまきり」を使う〔三浦市三崎町〕。

2 聞かない。言わない。使わない〔市原市〕。

いぼたむし：「かまきり」とは別物〔横須賀市〕。

えぼたむし：「かまきり」とは別物〔三浦市〕。

えぼったむし：1 昔言った〔横須賀市〕。

2 「かまきり」とは別物〔横須

賀市)。

えぼっくい：「えぼった」より古い〔横須賀市〕。

えぼ：「かまきり」より昔〔横浜市〕。

いぼきり：口語〔横浜市〕。

かんかんぼー：昔言った〔君津市〕。

はらたちぼ：子供の頃言った〔君津市〕。

以上は「土地っ子からの一言」とでも言いたいものだ。土地っ子が自分たちの言語について言うことがすべて正しいわけではない。それは日本人が日本語について言うことがすべて正しいわけではないのと同じだ。しかし、発言するにはなんらかの理由があるからこそ発言するのだ。そういう意味で、「東京湾岸言語の歴史」の一端を再構する過程で、一瞥しておく価値がある。もっと具体的に言えば、前章で統計によって推定したことの信憑性の有無を判定してくれるものだと言える。

3. 検証3／地理（空間）的観点による分析

この章では、言語地図を用いて、視覚に訴えて東京湾岸地域の特徴を考えてみる。本題に沿った区画を示す。東京湾岸沿地域はまず(1)東側（千葉県沿岸）と(2)西側（神奈川県・東京都沿岸）に二分割するのが妥当だ。(1)はさらに二分割すると、現実になる。これを表で示せばつぎのようになる。

(1)東側（千葉県沿岸） — 1)木更津市以南
— 2)袖が浦市以北

(2)西側（神奈川県・東京都沿岸）

「かまきり」の方言形（千葉県沿岸）

検証3では東京湾岸の東側（千葉県沿岸）の南端から順次北に移動する。安房郡・館山市⇒富津市⇄木更津市⇒袖ヶ浦町⇄千葉市⇒千葉県北部の順である。なお、回答形の見出しの

後にはすべて「類」という字を付加すべきだが、省略する。

地図に続いて地域②・③・④の「かまきり」の方言形を地図3-1～3-4で示す。「半島はことばを溜（た）める」と言うように語の種類が多い。そして、北に向かうにつれ種類が少なくなる。特徴を述べよう。

(1)地図3-1（表9参照）で黒塗りにしてある「いぼ＝」類は1）分布領域がちりちりになっている、2）海岸線に多い、3）地図3-2に分布（●）が続いている、のが特徴だ。

(2)地図3-1の「ざっとんぼ」類（Z）は1）

地域 〰〰〰（MAP参照）〔調査地点数404〕

項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	千葉県 安房郡・ 館山市
かまきり 128*	とかげ 98	書きことば
71	かまぎっちょ 90	話しことば
かんきり 51	(注)	
ざっとんぼ 34	「かがみっちょ」類	
いぼ＝ 24	がない。	
はらたち＝ 22		
げんべー 8他		

*「とかげ」の意味の〔かまきり〕(11)は除いてある。

表9

地域②〔回答者数389〕

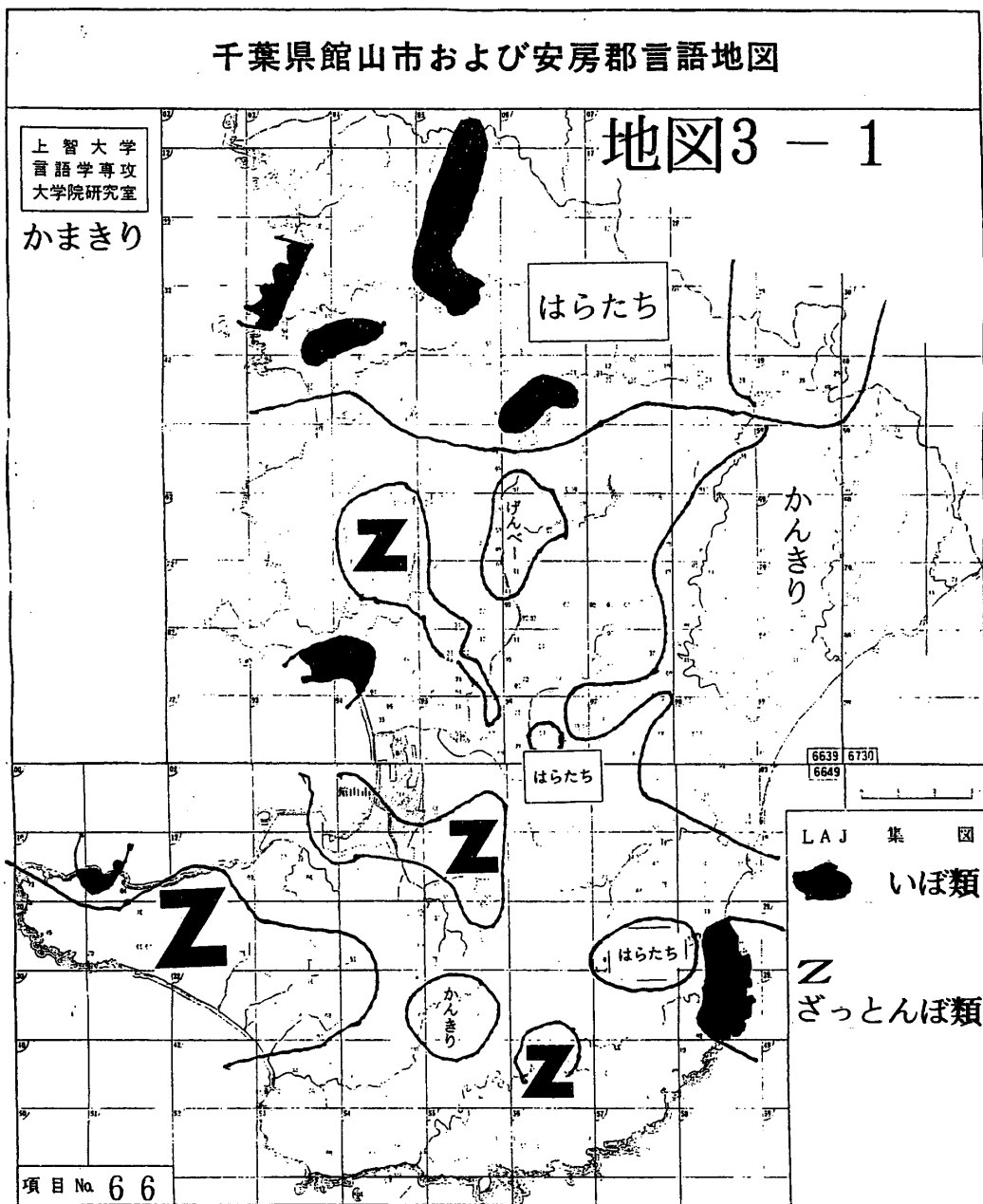
項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	千葉県 富津市・ 君津市・ 木更津市
かまきり 319*	とかげ 261**	書きことば
52	かまぎっちょ 79	話しことば
10	かまっちょぎ 14	
さるぼー 38	(注)	
いぼっきり 18	話しことば「かがみっちょ」類がない。	
はらたち 17		
つるんめ 11		
かんかんぼー 5他		
無回答 5	無回答 16	

*「とかげ」の意味の〔かまきり〕(47)は除外してある。

**「かまきり」の意味の〔とかげ〕(1)は除外してある。

表10

千葉県館山市および安房郡言語地図

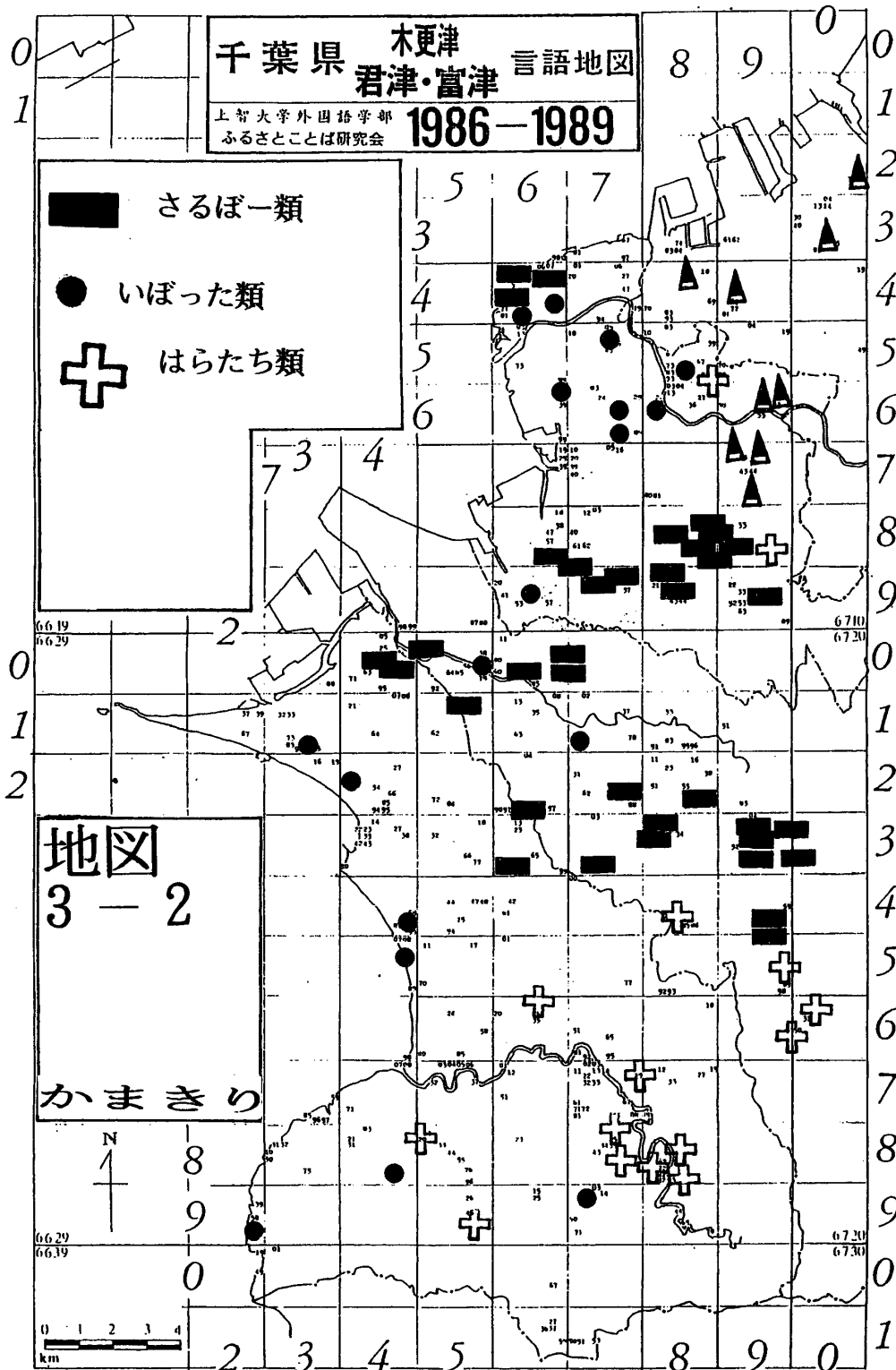


分布領域が散り散りになっているほかに、
2) 南端に限られている、のが特徴だ。

- (3)これらの「分布領域が散り散りになっている」語はかつては連続した広い分布領域をもっていた、と考えられる。往時の力が弱くなっていることを意味するばあいが多い。
- (4)その点「はらたち」類は1) 分布が散在している、が2) 分布が地図3—2に続いて、木更津の北端まで点々とした分布が見られる、のが特徴だ。この「はらたち」類は「い

ば＝」類とともにかつてはもっと広い分布領域を有していた可能性が高い。

- (5) 地図 3-1 の東側の「かんきり」類は後ろから支えている強い力が感じられる。南端で「ざっとんぼ」類を分裂させた「かんきり」は先遣隊を思わせる。
- (6) 地図 3-2 (表10参照) の「さるぼー」類は君津市・木更津市で生まれて語形と考えられる。しかし地図 3-3 のさらに北(鎌ヶ谷市)にある「さるまん」(地図は省略)と称

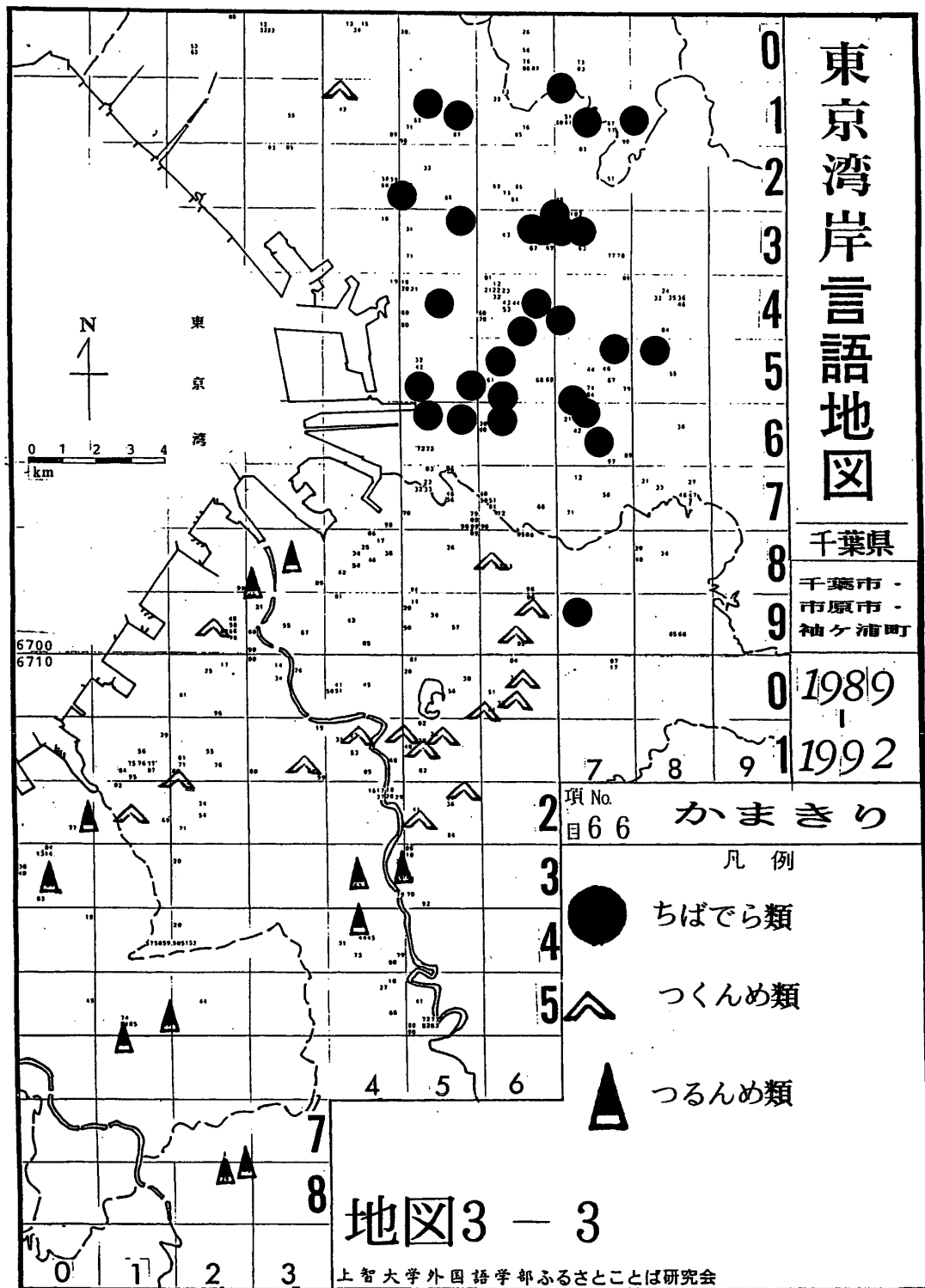


す語形とどういう関係にあるかが疑問である。無関係ではないだろう。

- (7) 地図 3-2 の北から 地図 3-3 (表11参照) は、三種類の語形がきれいに棲み分けをしている。「つるんめ」類と「つくんめ」類と

は後者が古いのではないか。しかし逆の考えもできるから、慎重にすべきだ。下総地方をもっと詳しく調べるべきだ。

- (8) 地図 3-3 の千葉市の「ちばでら」類はその類のなかを詳しくみるといろいろな表現

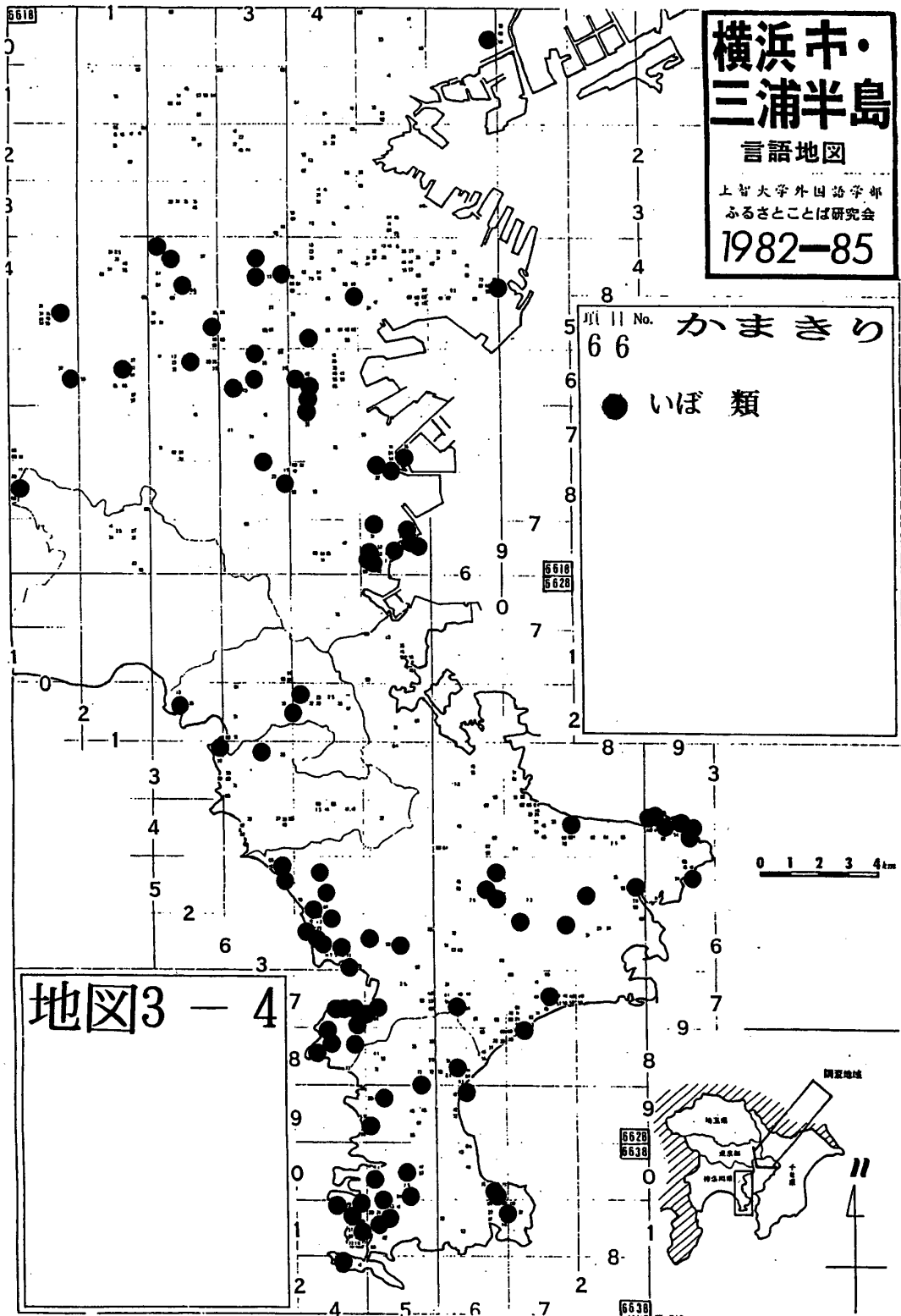


に分散されている。結束力が弱っている証拠。

- (9)以上「かまきり」の方言形は「とかげ」の方言形に較べて種類が多い。これは人間とのかかわり合いが「とかげ」より密接だからということが考えられる。

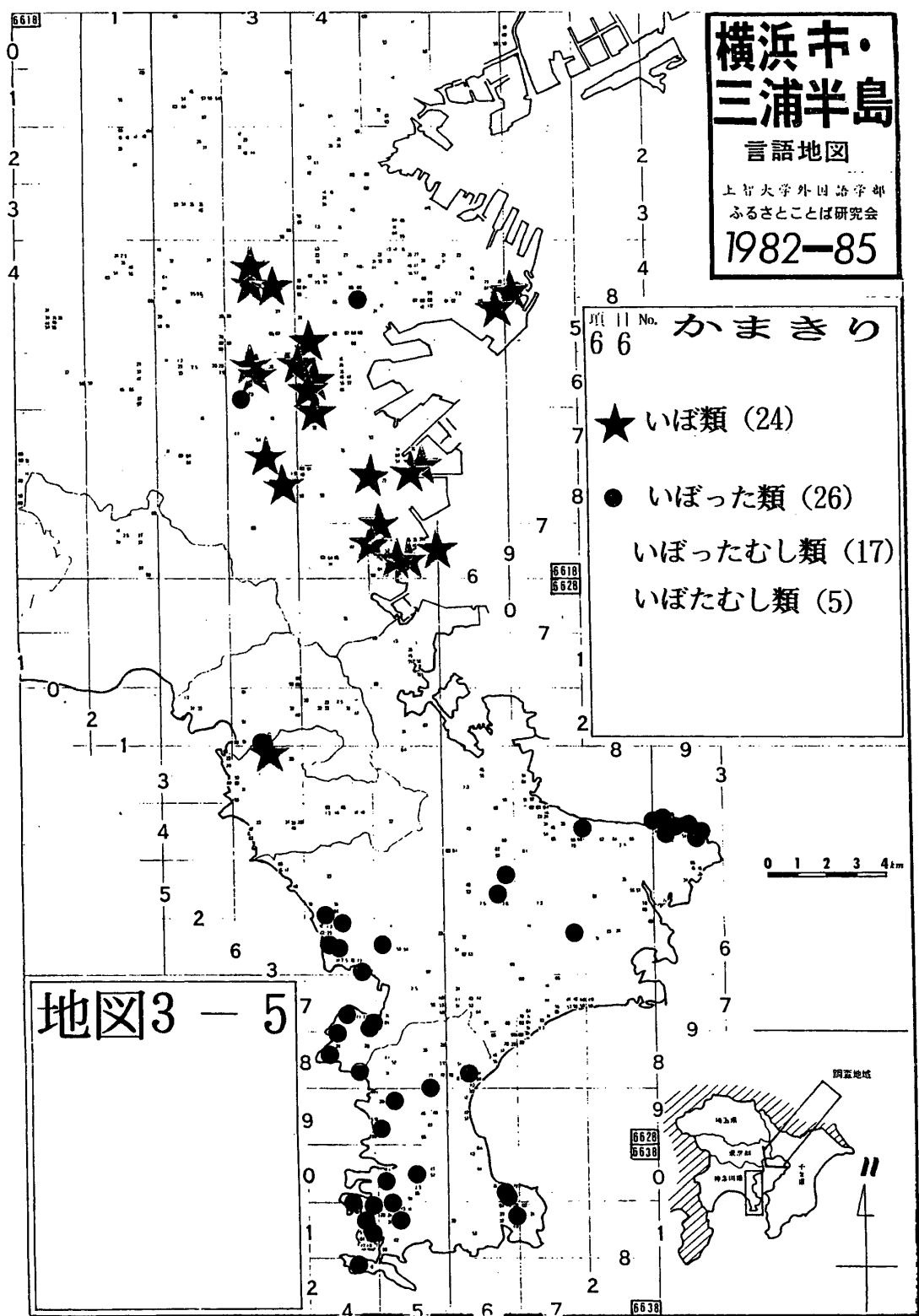
「かまきり」の方言形（神奈川県・東京都沿岸）次に東京湾岸の西側（神奈川県・東京都沿岸）に目を転じよう。これも南端から順次北に移動する。三浦半島・横浜市→神奈川県北部・東京都中南部の順である。

地図3-4（表13・14参照）を見ていただきたい



い。東京湾岸西側（表13）をみてまず気づくのは「いぼ＝」類が東側（表9・10）に比べて多いことだ。東側（千葉県）はせいぜい40地点あまりのものが、西側（神奈川県）は約三倍の123地点を数える。西側は戸塚区川上町以南は「い

ぼ＝」類一色と言ってもいい。東側で一番「いぼ＝」類が多いのは房総南端であり、北に進むとだんだん少なくなっていく。あるいは東側の「いぼ＝」類は、西側から来たものとも考えられる。房総南端の「いぼ＝」類は、海岸沿いに



居を構えたかのような現在の分布状況だ。だから、「いぼ＝」類が神奈川県から千葉県に海を渡った可能性がある。

地図3-5 (表13・14参照) を見ていただいた

い。この横浜から三浦半島全体に根づいている「いぼ＝」類はどこに中心があるか。それを示したのが地図3-5である。横浜の中心地に分布している星型の一群。もう一群は三浦半島海

地域③〔回答者数328〕

項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	千葉県 袖ヶ浦町 市原市・ 千葉市
かまきり 390*	とかげ 191**	書きことば
4 かまぎっちょ	11	話しことば
2 かまんちょう	194	
9 かまちちょ	68	
	かまげちょう 13 かがんちょう 7	
ちばでら 31 つくんめ 17 つるんめ 7 とーろんび 3他	(注) 「かがみっちょ」類 がない。	
無回答 3	無回答 9	

* 「とかげ」の意味の「かまきり」(25)は除外してある。
** 「かまきり」の意味の「とかげ」(18)は除外してある。

表11

地域④〔回答者数398〕

項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	千葉県 北部・ 東京都 東部
かまきり 286	とかげ 216*	書きことば
3 かまぎっちょ	18	話しことば
	かがめっちょ 33	
	かまげっちょ 6 かまちょう 4★ かがめちょう 2	
ごんべ 3 さるまん 2他		
無回答 1	無回答 10	

* 「かまきり」の意味の「とかげ」(1)は除外してある。
★ 「かまんちょう」の回答は一つもない。

表12

岸沿い地域である。前者は「いぼ・えぼ」。後者は「いぼ(っ)た(むし)・えぼ(っ)た(むし)」である。新旧を言えば、三浦半島海岸沿いの地域の一群がもっとも古い層〔「いぼ(っ)た(むし)」類〕だ。それに対峙しているのが横浜を中心としたもう一つの群「いぼ」類が新しい層だ。

以上「かまきり」の方言形の特徴をみた。各地域特有の現象が、東側(千葉県側)も西側(神奈川県側)も南に行くにしたがって濃くなる。

地域①〔回答者数576〕

項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	〔三浦半島〕 ・横浜市
かまきり 510	とかげ 567	書きことば
2 かまぎっちょ	3	話しことば
	かがみっちょ 106	
123 いぼった		
無回答 4	無回答 14	

表13

地域⑤〔回答者数202〕

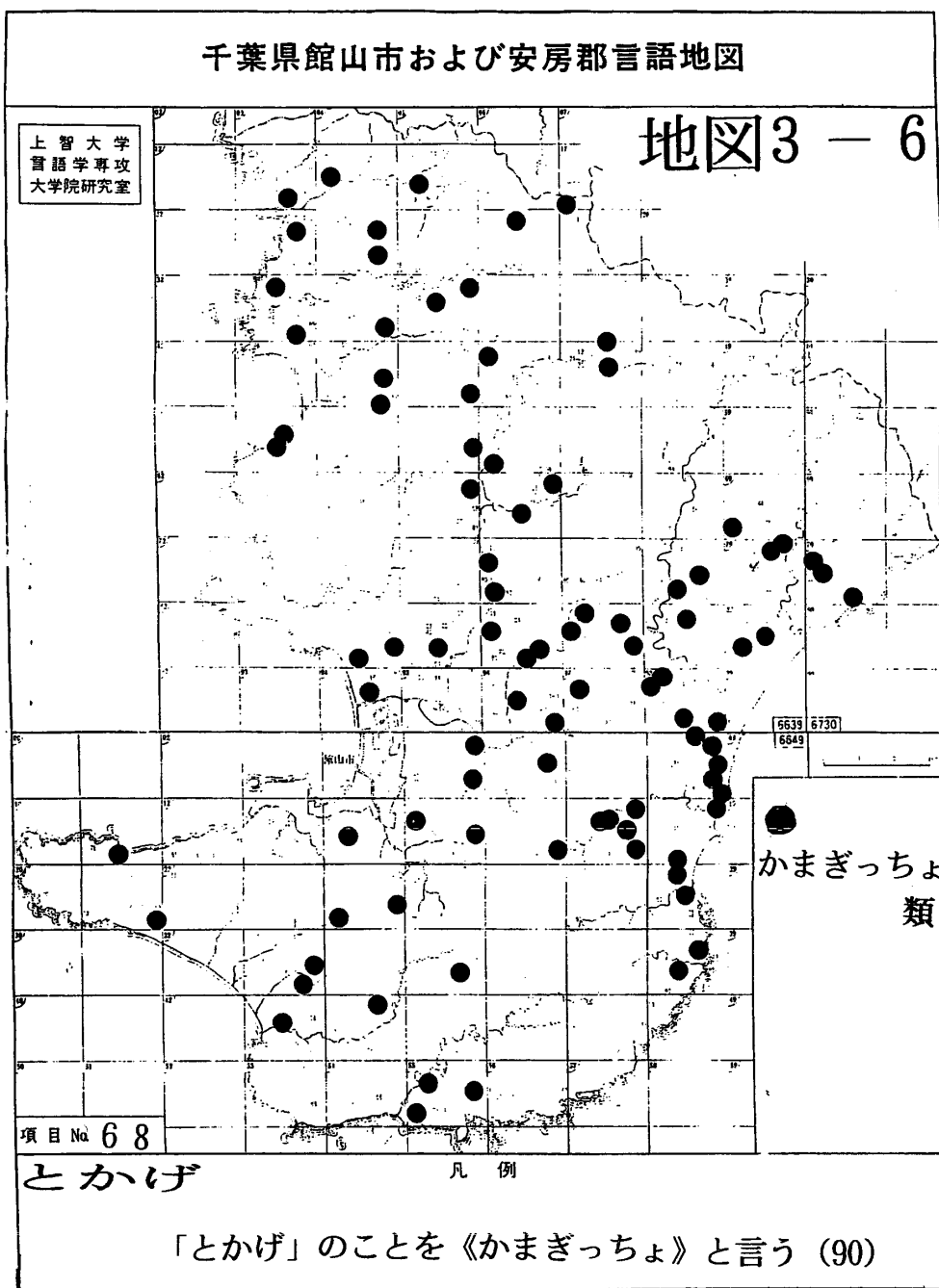
項目番号66 かまきり	項目番号68 とかげ	横浜市 北部・ 東京都 中南部
*かまきり 152	とかげ 122**	書きことば
	かがみっちょ 25	話しことば
	かまんちょう 1	
いぼそりむし 2 はらたちごんべ 2他	(注)「かまぎっちょ」がない!	
無回答 1	無回答 9	

* 「とかげ」の意味の「かまきり」(1)は除外してある。
** 「かまきり」の意味の「とかげ」(2)は除外してある。

表14

これに対して、東京に近づくにつれ地域色は薄れ、いわゆる標準語色が濃くなる。こうみると順風満帆、なんの問題もないように見える。しかし、その舞台裏では順風満帆どころではなかった。

上で紹介した地図の無印の地点は多くが「かまぎっちょ・かがみっちょ」類と標準語形「かまきり・とかげ」であった。「かまぎっちょ」類は、話し言葉と書き言葉の違いがあっても、意味の上では本来「とかげ」をさすものだった。しかし「かまぎっちょ」の語頭〈かま〉からの連想で「かまきり」を指すものだと考え始めたのがきっかけで標準語の「かまきり」と「とかげ」を巻き込んで混乱させた。現在でもその混乱傾向は千葉県房総半島の本木更津市以南に活きている。混乱の生々しい声については、「回答者の内省による分析」の中の特に「かまぎっちょ」



について意見を言っている《2.2 とかげ②》を見ていただきたい。

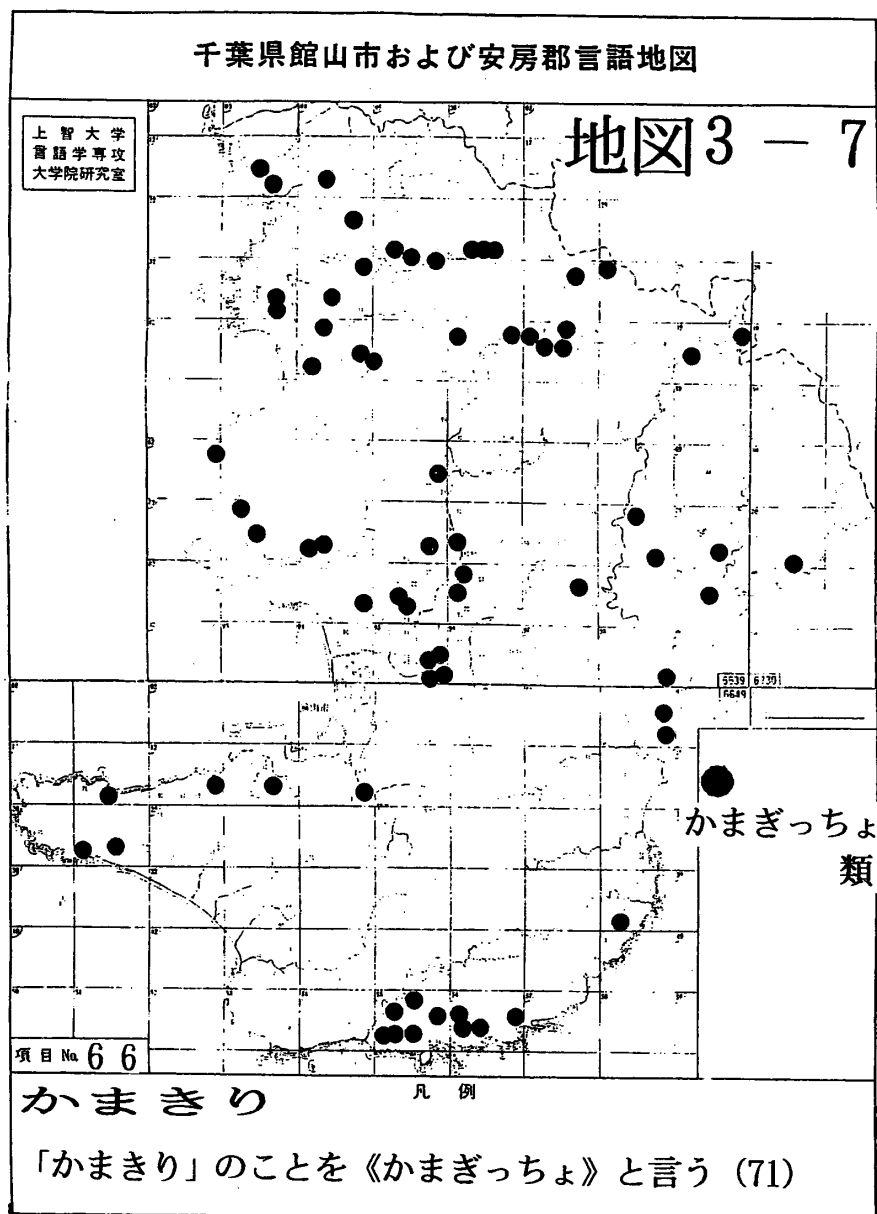
これに対して東京湾岸の他の地域では「かまぎっちょ」類が急激に衰退していると言える(詳しくは、本章の表9～14を参照)。しかし木更津市以北でも調査をすると、千葉県の下総にまで残り火が発見できる。壊滅とまではいかない。

「かまぎっちょ」と「かまきり・とかげ」との

混乱の種類

混乱1 「かまぎっちょ」=「かまきり」又は「とかげ」型

地図3-6は「とかげ」のことを「かまぎっちょ」という地点である。これが正用である。地図3-7は「かまきり」のことを「かまぎっちょ」という地点である。これは本来誤用であるが、誤用の意識はない。しかし、どちらが正用・誤用か分からない地元



の人も少なくない。

混乱2

「かまきり」対「とかげ」

= {

 [[かまぎっちょ]対[かまぎっちょ]]型

 [[かまきり]対[かまきり]]型

 [[とかげ]対[とかげ]]型

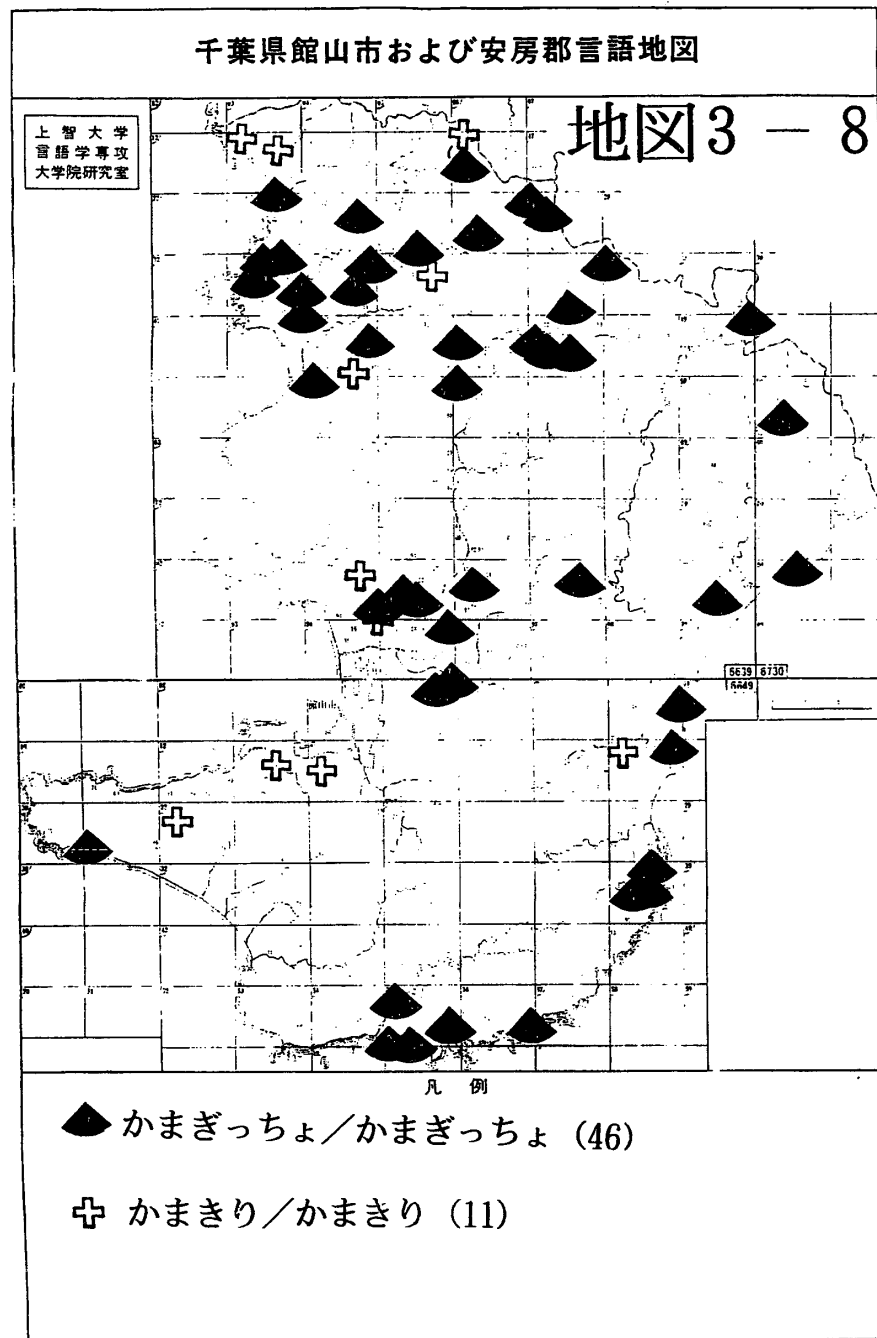
地図3-8は(1)「かまきり」対「とかげ」=「かまぎっちょ」対「かまぎっちょ」と意識している人が46名。参考：地域①0名／地域②24／地域③0／地域④2／地域⑤0。

(2)「かまきり」対「とかげ」=「かまきり」対「かまきり」と意識している人が11名。

参考：地域③11名／地域①0／地域②31／地域③19／地域④0／地域⑤1。

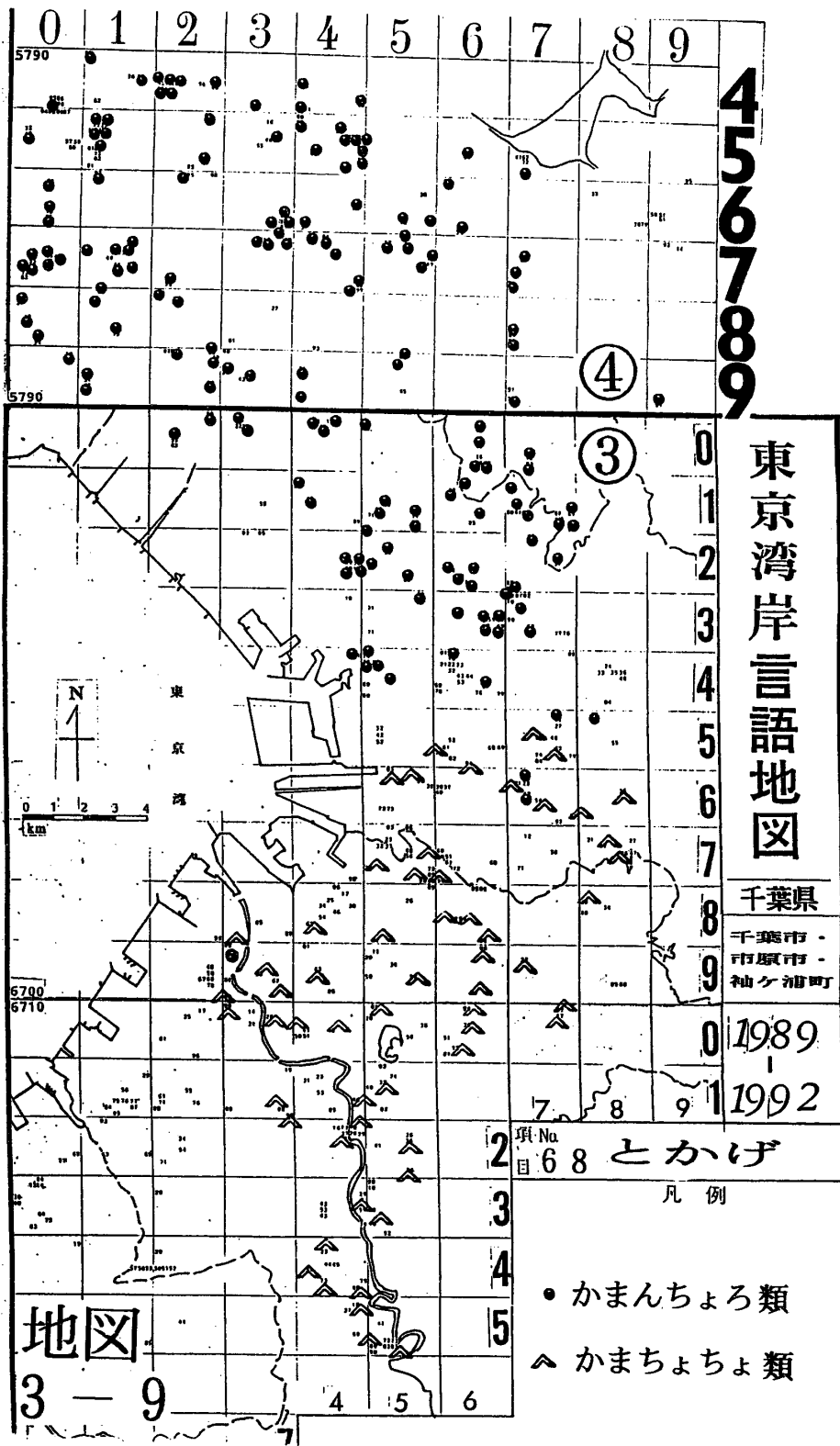
(3)「かまきり」対「とかげ」=「とかげ」対「とかげ」と意識している人が12名。地図化しなかったが、次の地点で確認：千葉県市原市（地図の枠・6700／6名）、佐倉市（5790／2名）、八千代市（5790／1名）、四街道（5790／1名）、東京都中野区（5698／1名）、杉並区（5698／1名）。

混乱の源「かまぎっちょ」の適応1：「かまちょ」類



言語記号としての語の混乱というきわめて深刻な事態に直面した人々はどうしたか？この障害を何か打ち破る方法はなにかないかと悩んだ日もあっただろう。千葉県のアノにはむかしからなかっただろうが、上総地方には「とかげ」の呼び名に「かまちょちょ」という言い方があった。その語の後部〈ちょちょ〉は「とかげ」の走る様子を表現した擬態語である。語にはかならずしも、その語の特徴を名前のどこかにと

どめなければならないことはない。それが「語の恣意性」の意味である。その語「かまちょちょ」という願ってもない後継者だと思った人は、最初からそう多くなかったかもしれない。しかし少しずつ「かまぎっちょ」から「かまちょちょ」に移るひとがふえてきた。これなら「かまきり」と間違えられない。ごく一部のいれかえで間違いのない名前を手にいれた。地図3-9をみれば、その領域はほとんど市原市内におき



まっている。養老川に沿っているような気もする。養老川の上流が送り込んでくれたのかどうかはわからないが、北で隣接している千葉市のなかに入り込んでいる勢いだ。

混乱の源「かまぎつちょ」の適応2：「かまんちょろ」類

その千葉市も深刻な事態に直面し、何かいい方法はないかと思う人がいたにちがいない。そ

の頃、千葉県下総あたりに「とかげ」の呼び名として「かまんちょう・かまちょう」などを口にする人々がいた。千葉市にも移動してきた。それらの語の後部〈ちょう〉は「とかげ」の走る様子を表現したものとして「かまんちょう」を抵抗なく「かまぎつちよ」の後継者にする人がだんだん増えた。「かまちょう」の場合と同じケースだった。

以上の推定を支えてくれるのは、上の二つの「かまちょう」「かまんちょう」のどちらかが分布領域をつくっている③地域には、「かまぎつちよ」が木更津市以南と較べて、激減していること。「かまぎつちよ」の激減を説明できるのは、〈一ちょう・一ちょう〉群以外にない。

現在の調査でも木更津市に3地点の「かまんちょう」がある。木更津市牛袋、同請西（じょうざい）、同犬成の3地点である。この小さな領域は、下総系統の「かまんちょう」が東京湾を介してやってきたものかもしれない。

混乱の源「かまぎつちよ」の適応3：「かがみつちよ」類の誕生

上では千葉県側の変化を探ってみた。こんどは〔神奈川県・東京都〕側について推定する。

「かまぎつちよ」に辛酸をなめさせられる一歩手前で逆襲した例である。

国立国語研究所（編）『日本言語地図』（第5巻）で「とかげ」の分布地図をみると関東一円を「かまぎつちよ」類が覆っている。ところが、そのうちで山梨・神奈川・埼玉・千葉の各県と東京都では「かまぎつちよ」ではなく、「かみつちよ」になっている。

これは音位転換 metathesis メタシシスという現象の一つである。「かまぎつちよ」⇒「かがみつちよ」の下線の部分が母音はそのままの位置で、前後の子音を交差して入れ代わる。下線部だけをローマ字で概略示すと ma gi ⇒ ga mi である。ただし、活字がないので/g/と書い

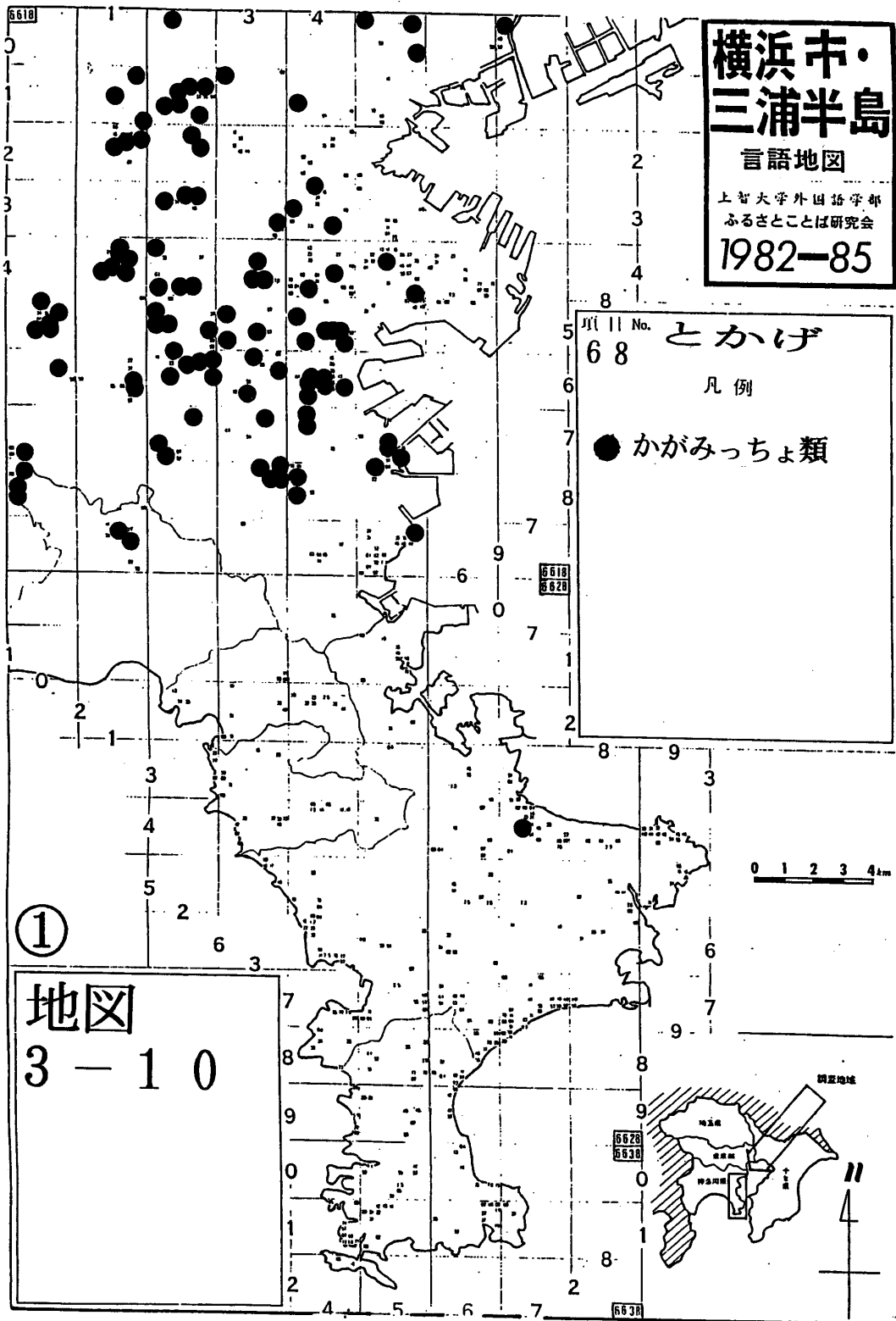
たが、じっさいは鼻濁音である、[ng]としたほうがわかりやすかったかもしれない。[g]は正確には非鼻濁音であるから。それはさておき、非鼻濁音 [g] の地域は「かがみつちよ」ではなく、「かまぎつちよ」のままである。それなのに鼻濁音 [ng] をもつ地域だけは「かまぎつちよ」⇒「かがみつちよ」という変化が生じたのだ。つまり、「かがみつちよ」に変化した地域は鼻濁音 [ng] をもっている地域に限られている。たとえば、千葉県は北の下総では鼻濁音 [ng] をもっているが、上総・安房では非鼻濁音 [g] である。だから、千葉県では、下総地方だけに「かがみつちよ」が生まれている。恐ろしいほどの精密さで。

地図3—10・11・12参照。ただし次の2地点は地図化しなかった。この2地点だけのために一枚の地図を使うのはもったいないから。その2地点は67001355（千葉市稲毛町）、67001760（千葉市若松町）。千葉市は鼻濁音地域の最南端に位置する。なお地図3—10・11において、無印（なんの符号も付してない）の地点は、すべて〔とかげ〕類である。地図3—12において、荒川以西の無印地点は、すべて〔とかげ〕類。江戸川以東の無印地点は、ほとんどすべて〔かまんちょう〕である。以上補足しておく。

本論のあちこちで言語の変化を擬人化に託して解説してきた。しかし言語はそもそも一人歩きをするはずがない。言語の背後にいる人間が使うものだ。だから、混乱の源「かまぎつちよ」をなんとかしなければならぬと考えるのは人間である。人間の思いが言語を通して働くのは不思議なことではない。

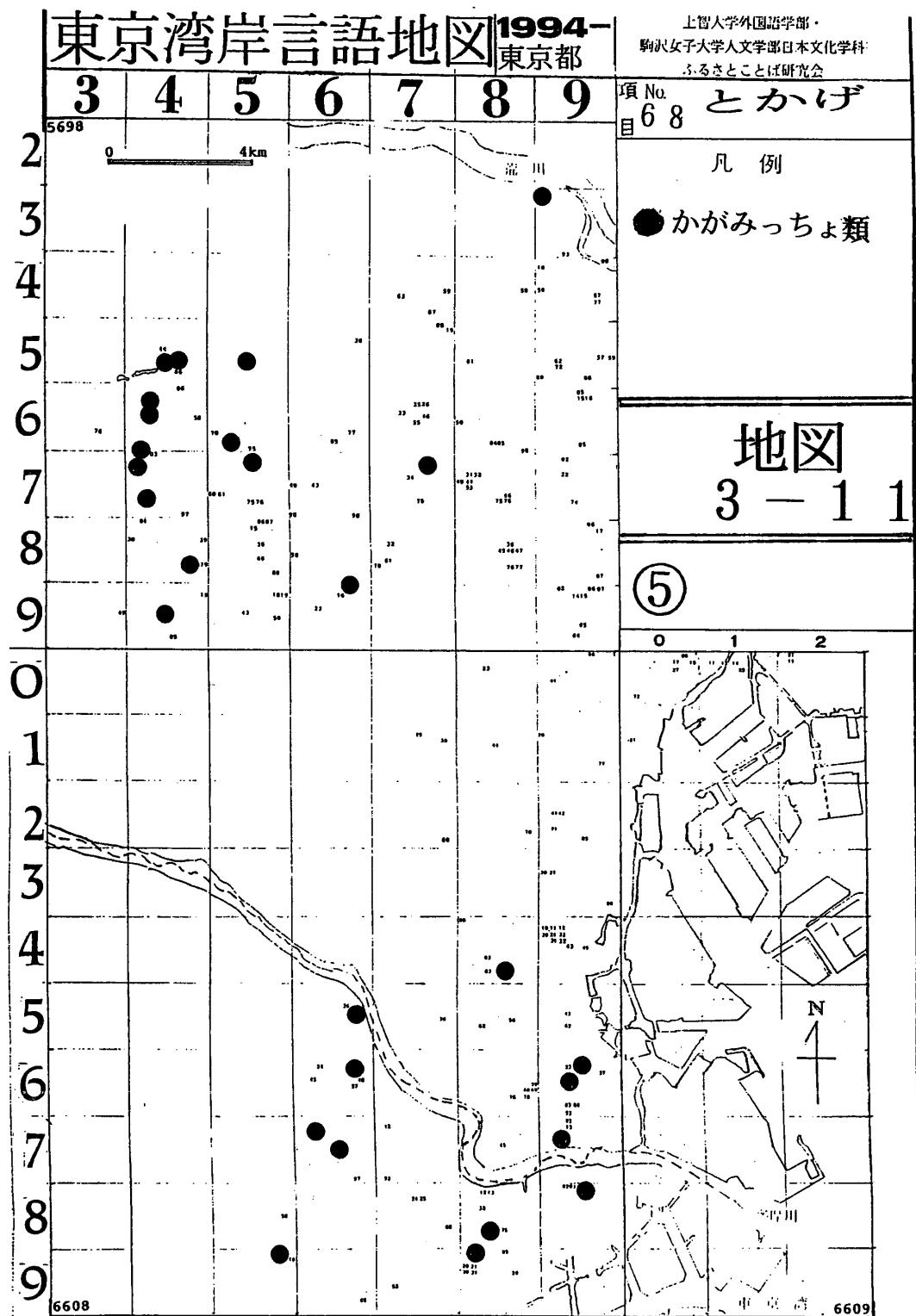
参考文献

越谷吾山(1775)『物類称呼』(岩波文庫版 1941)
佐々木英樹・W. A. グロータース(編著) (1984)



『千葉県館山市および安房郡言語地図』, 上智大
 国立国語研究所(編)『日本言語地図』(第5巻)
 とかけ
 東條操(1949/昭和24)「関東における蝸螂の俚

言」, 『方言の研究』, 刀江書院, pp. 108-120.
 徳川宗賢(1989)『日本方言大辞典』(全3巻),
 小学館.
 廣戸 惇(1986/昭和61)『方言語彙の研究』,



風間書房。

柳田国男(1950/昭和25)「蟪蛄考」,『西はどっ

ち——国語変遷の一つの例——』, 甲文社, pp.

249-305.

東京湾岸言語地図

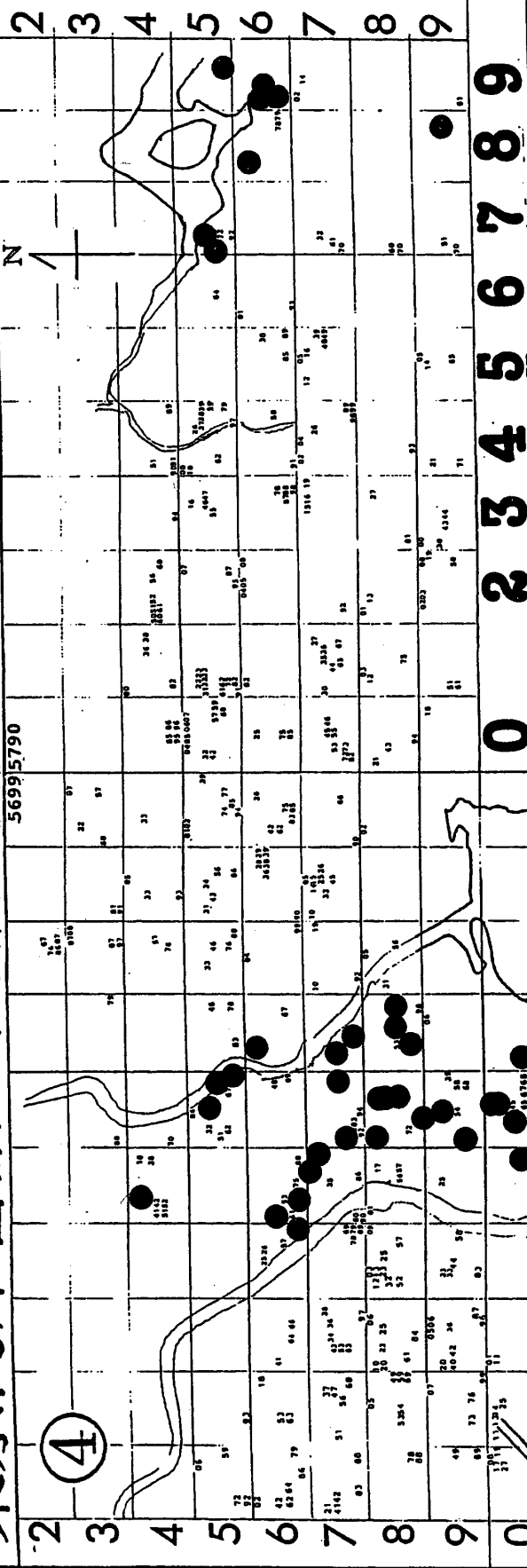
千葉県
東京都

(佐倉市・習志野市・船橋市・市川市・浦安市など)

(江戸川区・葛飾区・墨田区など) 396 localities

5699/5790

1991-1994



項 No.

68

とかげ

凡例

● かがみっちょ類

地図

3-12